

2

0

1

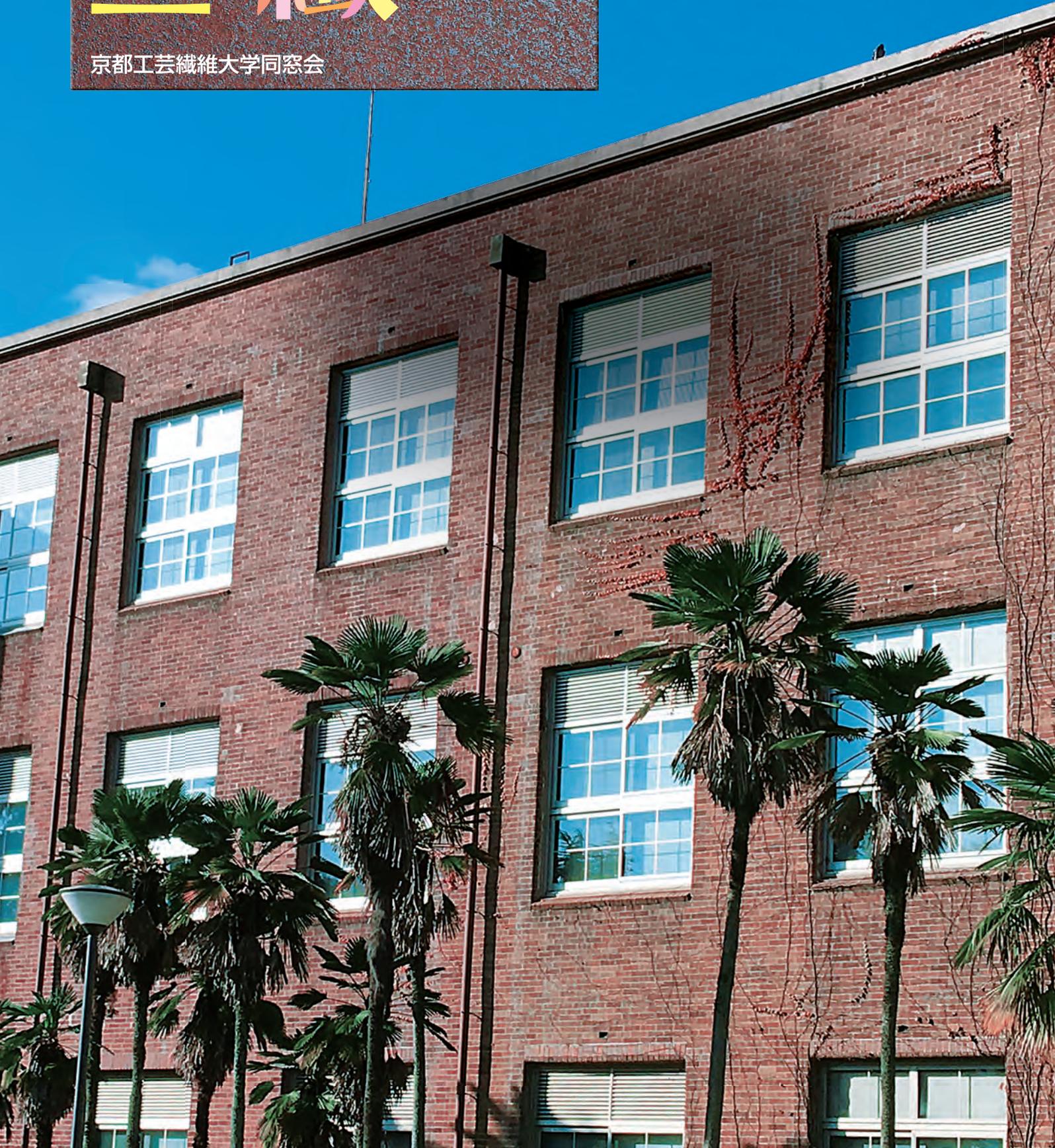
7

KIT同窓会誌

平成29年 No.11

# 工 織

京都工芸繊維大学同窓会



## 目次

■ 会告		1
■ ご挨拶	山崎 達夫、中村 淳、古山 正雄、前川 輝彦、 小角 亨、藤沢 寿郎、森 肇	2
■ KIT 同窓会 定期総会及び懇親会報告		7
■ ご挨拶	渡部 英樹	9
■ 退職教員挨拶	遠藤 泰久、小林 久芳、塚原 安久、播磨 弘、 森本 一成、大倉 弘之	9
■ KIT 同窓会支部・部会		12
KIT 同窓会浜松支部（浜松工織会）便り		
関東支部の近況と知的財産権の現状分析		
平成28年度 KIT 同窓会東海支部総会開催される		
KIT 同窓会近畿支部（KIT-KINKI）のあゆみ		
熊本県支部の活動について		
「色染物質会」活動報告		
愛媛県支部便り		
「滋賀のよさ見直し」滋賀支部活動		
衣笠同窓会だより ご挨拶と衣笠同窓会の今後の在り方について		
京工大機織会（マコーン会）の活動		
KIT ゴルフ会便り		
交扇会（平成28年）活動報告		
京都工芸繊維大学剣友会の活動紹介		
平成28年度硬式野球部 OB・OG 会活動報告		
千花会の活動報告		
住環境学科部会活動報告		
京都工芸繊維大学サッカー部 OB 会設立記念祝賀会の報告		
バスケットボール部 OB 会の活動報告		
■ 寄稿		26
繊維の研究開発に携わって	増田 豊	
中澤良夫初代学長と硬式野球部に想いを馳せて	糸井 久明	
絵を描くことそして学舎	榎原 保	
水彩画との出会いとラヴァージュ画	藤田 康弘	
KIT 同窓会理事就任の挨拶	高木 恒男	
瞬く間の四十数年	岡 博司	
たつ鳥跡を濁す	千葉 薫	
■ 大学だより		31
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムで京都工芸繊維大学生の海外留学を促進		
■ 海外インターンシッププログラム推進事業参加体験記		32
タイ国際設計ワークショップ		
共同ワークショップで得たもの		
2016 Ecole National Supérieure d'Architecture de Versailles Workshop		
ベトナムでのグローバルインターンシップで学んだこと		
■ 美術工芸資料館		34
美術工芸資料館の活動		
■ 若手研究者支援事業報告		36
■ 課外活動		37
第14回全日本学生フォーミュラ大会優勝報告		
ROBOCON 挑戦プロジェクト		
■ 平成28年度 博士学位取得者と学位論文題名		39
■ 卒業生・修了生の就職先・進学先（平成28年度 進路先内定状況一覧）		41
■ 訃報・物故会員		43
■ 年会費等の納入について		44
■ お知らせ		
2015年版同窓会名簿について		
■ 表紙デザインについて		
■ 編集委員		

## ■ 会 告

平成29年度の総会を、下記のとおり開催します。会員諸兄姉の多数のご参集をお願いします。  
同窓生はじめ、クラブ・同好会など関係者お誘い合せのうえ、多数のご参加をお待ちしています。

記

### ○ 京都工芸繊維大学同窓会 平成29年度定期総会

日 時 平成29年 6月17日(土) 午後4時から

場 所 ウェスティン都ホテル京都 東館 2階 「山城の間」  
京都市東山区三条けあげ 電話：075-771-7111

報告事項 1. 平成28年度事業報告  
2. 平成28年度決算報告  
3. 平成28年度会計監査報告

協議事項 1. 平成29年度事業計画（案）  
2. 平成29年度予算（案）  
3. その他

### ○ 京都工芸繊維大学同窓会恒例の懇親会を下記により開催します。

記

日 時 平成29年 6月17日(土) 午後6時から

場 所 ウェスティン都ホテル京都 東館 2階 「山城の間」

会 費 10,000円（ただし、学生会員は3,000円を当日受付にてお支払いください。）

〈参加申込みについて〉

総会、懇親会への多数の参加をお待ちしております。

参加される方は、別添アンケート用紙（平成29年度KIT同窓会定期総会・懇親会 出欠のご回答）の「出席」に○印をお付けの上、6月2日(金)までに必着するように投函をお願いします。直接同窓会事務局にFAX又はメール（kit-obog@jim.kit.ac.jp）によりご連絡下さっても結構です。

## 同窓会に求められる活動と機能について



京都工芸繊維大学同窓会  
会長 山崎 達夫  
(養蚕学科 昭和35年卒)

昨年6月の総会で、同窓会の新体制がスタートをして、既に8カ月が経過しました。新執行部に求められたものは、組織の在り方を巡る論議の根本からの見直しであり、組織運営のガバナンス回復と組織機能の正常化を目指すことにありました。そしてこの間の検証と反省、見直しの結果を来事業年度以降の計画立案に反映して行くことです。

運営の正常化については、勉めて執行部での意見交換と認識の統一を図るよう、既に5回の正副会長会議を持ちました。特に組織と活動の在り方について、専門委員会を立ち上げ夫々各5回の協議検討の場を設け真剣に協議を進めて来ました。各委員会における課題や議論の内容については、本紙に記載された、活性化検討委員会と組織検討委員会の夫々の委員長の概要報告をご覧ください。

中でも活性化検討委員会では、11月に大学と協賛しホームカミングデーに合わせた企画行事を開催、また来期の政策立案や予算編成の中でベストな収支バランスの検討を進めているところです。全会員の皆さんに同窓会活動に対する意向をお聞きするためアンケート方式による調査を準備中です。組織検討員会でも、昨年の反省に立ち、これからの在るべき同窓会の使命や目的、その枠組みを求めて基本論議を行い、一つの結論として「ミッションステートメント」を提言として取り纏めました。今後、これに基づき組織の機能や形態について現状の見直しの議論、検討を深めて行きます。

同窓会が卒業生の集まる場所を提供し、親睦を深める活動だけに終わるのでなく、同窓会が卒業生の集団として社会の中でどんな役割を担い、責任を如何に果たして行くべきかを考える時に来ていると思います。そのためにも全会員が、同窓会に求められる役割や機能を共通の課題とし認識し、時代と共に変革して行く決意と努力が必要です。

社会の構造変革が進み、産業の世界でも IOT

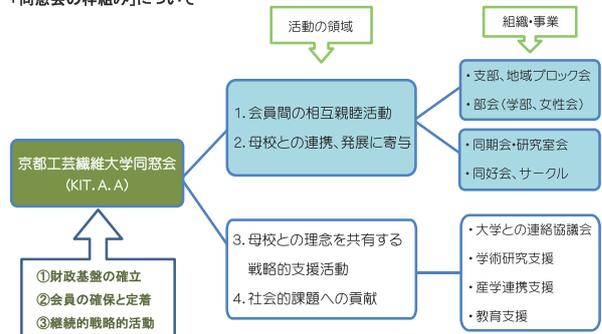
と AI が結びついた第4次産業革命の波があらゆる分野で変革を促しています。

我が国の少子高齢化社会の進行やグローバル化に伴う時代の変化は、大学の在り様についても改革が求められています。母校では理工系単科大学の特色を生かし、機能強化の方向性として3つの中核拠点（グローバル、イノベーション、コミュニティ）を形成し、改革に取り組んでいます。私たちの同窓会も足並みを揃え、母校の理念を理解共有し、提携支援を可能にする体制を整えねばなりません。また、同窓会の活動の領域についても、既存の組織や活動を基盤におきつつも、ミッションやビジョンを明解にした上で、これからの組織の在り方、会議体の権限・機能について見直しを進めねばなりません。

組織の形態、枠組みについては現在活動中の支部、同期会、クラス会をベースにして同好会、サークルに及ぶ夫々の同窓会を広く、緩やかに繋ぐ枠組みを作り、世代を超えた卒業生の親睦と交流を深めつつ、同窓会の持つ社会的使命を達成しうる戦略的な活動を段階的に高めて行くことを目指します。

枠組みをイメージすると次の図のようになります。

「同窓会の枠組み」について



今後、将来に向けた同窓会の発展のために、皆さんと共に課題を一つずつ確認しつつ、論議を進めて行きたいと思っていますので宜しくご参加、ご協力をお願いします。

## 会長退任のご挨拶



京都工芸繊維大学同窓会  
顧問 中村 淳  
(建築工芸学科 昭和32年卒)

皆様には、日頃より京都工芸繊維大学同窓会(略称：KITAA)の諸活動にご参加いただき、KITAAの活性化にご尽力を賜りまして、衷心より厚く御礼申し上げます。

振り返ると、2014年6月開催の総会において、三好前会長の後を継いで会長に就任し、皆様のお力添いを頂きながら同窓会活動を展開し、2年後の2016年6月の総会で任期が満了しました。後任者は、山崎達夫会長です。

KITAAには24,000名余の同窓生がおいでになりますが、KITAAはこの方々に年一回発行される同窓会誌「工織」を全員に配布しています。これが全国津々浦々の皆様に活動報告をさせていただく唯一の手段です。

また、インターネットにKITAAのホームページを掲載して、リアルタイムで情報を提供できる体制作りを目指しておりますが、まだ不完全なままの状態です。このホームページは同窓会活動の情報伝達手段としては当を得たものですので、さらにご家庭にインターネットが普及すれば、皆様の声をお聞きする有効な手段にもなるでしょう。

KITAAの支部は、全国でまだ7支部しかありませんが、全会員の8割弱を擁する近畿支部は活発に活動されて、会員間の交流を積極的に進められています。

全都道府県にこのような支部を創設することが重要な課題です。

「全国津々浦々の皆様に同窓会活動の輪を広げる」活動を実施するための実行計画が必要です。

現在KITAAの支部・部会は19件、その中で注目されるのが、際立って多い会員数5,660名を擁する衣笠同窓会の存在です。全国の支部を統括し、総会・支部長会を開催するなど、活発に活動されています。

ここからは衣笠同窓会に負んぶに抱っこのおねだりになりますが、要望を書かせていただくと、衣笠同窓会の支部ネットワークにリンクする形で、旧工大会の同窓生を参加させていただきたいと思えます。

具体的には、衣笠会の各支部所在地に住む工大会の方々をリストアップしていただき、平成18年に統合された工芸科学部の支部として衣替えをして、支部総会を開いて旧工大会の同窓生

を迎え入れていただきたいと存じます。

これが実現すれば、これまで年に一度の同窓会誌を読んでいた方も、近くの支部に顔を出して参加いただくことで仲間を増やし、地域の特色を活かした交流と親睦の輪を広げていただくことができます。また近隣支部と合同で懇親会を開催し、地域交流の輪を広げることもできます。

KITAAの総会は毎年6月に京都で開催しています。京都から遠く離れた地域にお住まいの方々も多数ご参加いただきたいのですが、近畿中心の会となるのはやむをえません。

どうぞ皆様方には最寄りの支部活動にご参加いただき、親睦と交流の輪を広げて頂きたいと存じます。

この実行計画が軌道に乗り、全国津々浦々の皆様に同窓会活動の輪を広げることができますことを誓います。

平成27年度総会の前に開催した理事会において、それまでの法人化検討委員会で検討された内容が審議され、様々な意見が出ましたが、最終的には、理事会として賛成多数で法人化への方向性について承認されました。その後の総会においても、法人化への方向性については承認されました。

どのような社団法人を目指すのか、法人化の経験のある方の協力を得て、多大な時間をかけて一般社団法人の定款(案)を作成していただきました。同窓会誌「工織」9号に緊急特集を掲載し、法人化への移行を解説しました。

このように約二年間に及ぶ膨大な時間と労力をかけて同窓会の法人化を目指しましたが、結果的にその目標を達成できぬまま、私は会長としての任期を終えました。これは会長としては誠に申し訳なく、皆様にこの場をお借りして深くお詫び致します。

次の理事会・総会を経て、心機一転新たな体制でKITAAが再船出することになります。この同窓会の法人化は、その新たな体制の下で、むしろこれまでの経緯を引きずることなく進めて行くことも必要ではないかと考えております。

KITAAは母校の応援団として、世界に羽ばたく母校のグローバル化推進を支援します。

## 改革を形に



京都工芸繊維大学

学長 古山 正雄

本学は、近年、大学の機能強化の基本戦略として、COC、COG、COIの3本柱に注力して活動してきました。COCはセンター・オブ・コミュニティの略で地域の核となって地域の活性化に貢献すべし、COGはセンター・オブ・グローバルイノベーションの略でグローバルの核となって国際化に寄与すべし、COIはセンター・オブ・イノベーションの略でイノベーションの核となって産業界に貢献すべし、等を意味しています。これらの事業は、文部科学省、地方自治体、民間企業、そして同窓会など、様々な団体・企業等からの支援を受けて実施しているものであります。ここに、深く感謝の意を表する次第であります。

さて、ここでは、近年の活動実績を拠点形成という観点から振り返ってみたいと思います。

COC関連では京都府内を中心に様々な活動拠点を形成してきました。京丹後市には10年以上にわたり京丹後キャンパスを開設しています。これに加えて、昨年11月には旧溝谷小学校を改築した「新シルク産業創造館」が完成しました。ここでは、京都府、京丹後市、地元産業界と連携して、繭生産基礎研究を実施し、事業者の製品開発を支援していきたいと考えています。福知山市には昨年4月に福知山キャンパスを開設し、2年後から福知山キャンパスでの学生教育が本格稼働します。また、綾部市では、日東公進株式会社の工場内に綾部地域連携室を設置していますが、今後はJR綾部駅前に、グンゼ株式会社、京都府、綾部市、京都工芸繊維大学が連携して「北部リサーチパーク（仮称）」を開設する予定です。

COG関連では海外での拠点形成を推進してきました。タイのバンコクには協定大学であるキングモンクート工科大学トンプリ校の産学連携ビル内に本学の海外オフィスを開設し、共同研究やインターンシップの拠点としています。また、同じくタイのバンコクのラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校内や、チェンマイのチェ

ンマイ大学内にも海外オフィスを設置しました。チェンマイ大学とは、今年4月からジョイント・ディグリープログラムとして大学院に「京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻」を設置し、2大学共同で国際的教育プログラムを提供します。ヨーロッパでは、今後、英国のケンブリッジ大学内に欧州ブランチを開設する予定です。また、イタリアの大学とも海外拠点の形成に向けて連携を強化しています。

COI関連では松ヶ崎キャンパス内の研究施設を充実させています。造形系ではデザインファクトリーが設置され、電子系ではグリーンイノベーションセンターに、機械系ではものづくり教育研究センターに、それぞれ新たな設備が整備されます。バイオ系はケンブリッジ大学と京丹後市の拠点整備を進め、嵯峨キャンパスへと展開していく予定です。また、平成26年度に整備したCOCプラザ棟は、産学連携の活動拠点として企業の方々をはじめ学外の方々に使っていただきたいと思っています。

このように、それぞれの分野・領域で戦略的な意味を持つ拠点が整備され、大学の機能をさらに高める環境が整いつつあります。

昨年4月からは、第3期中期目標期間がスタートしています。第3期では、大学のあらゆる活動において、評価指標（KPI）を掲げています。もはや改革を推進するだけでは足りず、具体的な成果が求められる時代になっています。特に数値目標については、これまで以上に厳しい目標を定めています。これらは自らが課した社会との約束であり、教職員一丸となって何としても達成したいと思っています。

今年は、これまでいただいた改革に対する数多くのご支援への感謝の気持ちを胸に、改革の結果としての成果をより多くお見せできるよう頑張っていきたいと気持ちを新たにしています。引き続き温かいご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 副会長就任のご挨拶



KIT 同窓会副会長  
**前川 輝彦**  
(繊維化学科 35年卒)

昨年6月の総会において副会長に就任いたしました。非才ながら微力を尽くしたく存じます。新しく設けられました特別委員会の組織検討委員会を担当しております。

近年、国立大学を取り巻く環境は厳しくなっております。運営交付金が削減され、特色化が求められる中、母校も国立大学の責任を果たすべく機能強化に向けた様々な改革を推進しつつあります。母校の動向に則して如何に有効に連携して行くか、同窓会が戦略的支援を行う事もその使命の一環と考えられます。

さて、組織検討委員会は総務委員会で同意を得た8名の委員で構成し、KIT 同窓会の在り方に方向性を出すべく以下の検討課題を設定し協議することになりました。

1) 目的、2) 事業、3) 財務、4) 組織、5) 機関設計、6) 規約、7) その他、大学連携など。

これまでの数次に亘る委員会において、同窓会はどういう存在かの自問からスタートし、望ましい在り方を検討するなかで、次のようなミッション★ステートメントを纏める事が出来ました。

### 京都工芸繊維大学同窓会 (KITAA)

#### ミッション★ステートメント

1. 私たちの同窓会は、母校の理念★価値観を共有し、会員が相互の世代を超えて親睦を図るとともに、継続的の支援者として母校の発展に寄与と貢献する。
2. 私たちの同窓会は、「知と美と技の融合」を目指す母校と連携協調して、学術と文化及び産業における社会的課題に応える支援と活動を行う。
3. 私たちの同窓会は、良質な政策のもと、調和と一体感を持って誠実に会を運営し活動を推進する。

大方によりご賛同が得られることを望みます。同窓会は本来的に同窓生の親睦交流を目的としますが、母校と連携しながら社会的課題に応える支援を行うのも使命であろうと考えます。

同窓会の現状について言えば、如何に関心を持てる活動をしているか、の課題につきます。同窓会への親近感、期待するところは卒業年代(年齢)によって濃淡があると思います。各支部への参加はシニア層に偏りがちで、若年壮年層の参加が少ないのが現状と思われます。少しずつでも改善して行ければと思います。

会員の皆様の提案、より一層のご支援、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

## 活性化委員会報告



KIT 同窓会副会長  
**小角 亨**  
(建築工芸学科 昭和36年卒)

活性化委員会の中に、資格検討部会(河島部会長)、予算検討部会(中村部会長)、会員啓発部会(吉羽部会長)の3部会があり、以下の方々が時に応じて、それぞれ部会の仕事で活動なさっています。

井上良一(織化33年卒)、森橋俊文(機織39年卒)、中村成臣(織化43年卒)、河島博(機織45年卒)、吉羽敏郎(意匠48年卒)、澤野井裕文(織工49年卒)、井畑雅年(織工49年卒)、矢ヶ崎善太郎(建築58年卒)。

私たちの昨年を通じての大きな活動は、11月に行われたホームカミング・ウィークへの参加でした。これは、もともと荒瀬治夫(織化37年卒)さんの提案を具体化し、在学生に対して、世界に眼を向けてもらおうという二人の卒業生の講演会でしたが、学生自身が当日大学の行事に忙殺されて、参加者が少なく、残念な結果になったことは、私がホームページに報告させていただいた通りです。

当初は、荒瀬さんご本人も、講師として、経験談を伝えるはずでしたが、折悪しく御病気が見つかり、無残にも、本年1月お亡くなりになりました。誠に残念なことです。私たちは荒瀬さんの御遺志を引き継いで何らかの形で在校生との交流に努めてゆきたいと話合っています。

予算検討委員会では、毎年の巨額な繰越金の計上を改め、特別会計の項目を作成しました。

資格検討部会の業績は、今回、「機関誌「工織」を皆さんにお届けすると同時に、おそらく同窓会始まって以来の大掛かりなアンケートを同封されることで、一応の成果を見たものと考えています。このアンケートこそ、同窓生皆さんと、私たち執行部とを結ぶ細い一本の糸だと考えて、どうか切らないで、誠意のある回答をしていただきたいと切望しております。

アンケートの回答を集計し、分析し、指針を立てながら、再び活性化委員会で結論を出すのは、半年か1年後だと考えています。

皆さんの御協力を期待します。

## 会員の皆様の会費納入率の向上を目指して

KIT 同窓会副会長

**藤 沢 寿 郎**

(窯業工芸学科 昭和37年卒)



副会長を拝命して3年が経過しました。私に与えられた目標はKIT 同窓会の活動の資金である会費の納入率を上げる事です。

卒業生からの納入していただいた会費は、平成25年度は約600万円、26年度は536万円、27年度は937万円と増加しましたが、28年度は500万円程度になりそうです。27年度に増加した理由は、私達の京都工芸繊維大学が、大学の特色が認められ我が国におけるトップレベルの研究をグローバルに展開する事を期待されるようになった事で、それは皆様からの期待の成果と考えています。

このようにグローバル展開する研究拠点でCOG (center of global) といわれて今後外国の大学との交流の増加が期待されます。

KIT 同窓会のミッションは、同窓生のつながり、親睦だけでなく、社会に対して同窓会を通じて恩返しをすることです。また現在学んでいる学生達への支援も行っていかなければなりません。平成27年度の総会でKIT 同窓会は法人化する方向が決定されました。法人化するためには、色々な事業が検討され、そのための資金が必要になってくる事が予想されます。卒業生からの会費は少なくとも年間1,000万円を目標に考えています。

会費を集める為には会員全員の意識向上が必要です。

その為の対策を皆様から応募したいと思っています。是非ホームページからご提案下さい。今検討していることは

- 支部総会や部会等で皆様が集まる時に、同窓会費を徴収することや会誌でのお願い。
- 卒業35年の方は60歳定年に近づき、その機会に会費や終身会員のお願いをする。
- 終身会員(累計で3万円を納めた方)になって頂いたかたに恩典を考える。

どうか、KIT 同窓会発展のためにご協力お願いします。

## 就任のご挨拶

KIT 同窓会副会長

**森 肇**

(蚕糸生物学科 昭和57年卒)



私は、繊維学部蚕糸生物学科を昭和57年に卒業しました。その後、名古屋大学大学院農学研究科で学位を取得し、昭和62年の秋に繊維学部応用生物学科の助手に採用されました。助教授、教授を経て、平成26年から本学の理事・副学長を務めております。そして、このたび京都工芸繊維大学同窓会の副会長を務めることになりました。

本学に勤めた時から、繊維学部の同窓会である衣笠同窓会のお世話をする中で、先輩の方々から様々なことを学ばせていただきました。私が今日あるのは、その同窓会のおかげであることは間違いありません。いろんな失敗を経験し、また失礼なことをしてしまったにも関わらず、先輩方からは常に温かいお言葉を頂戴しました。心より御礼を申し上げたいと思います。

さて、京都工芸繊維大学同窓会を見てみると、年々総会や懇親会へのご参加が少なくなっております。お忙しい会員の皆様にとっては、なかなか同窓会への参加が難しい環境であることはよくわかります。特に、30歳から50歳の年代のまさに働き盛りの方、また家事等にもお忙しい方々ですから、なかなか同窓会活動に参加することが難しいと思われます。しかし、そういった年代の方々にもたまには同窓会に出てみよう、あるいは少し時間的に余裕が出てきたので、久しぶりに同窓生と会ってみたいとお感じになれるような同窓会にしておくことが大変重要だと思います。同窓会活動にはホスピタリティーが最も重要だと私は感じております。同窓会の会議の中で、会員への連絡はメールやホームページで十分であるというご意見を寄せられる会員もおられますが、全ての方がインターネットを利用されているわけではありません。また、メールアドレスを同窓会にお知らせした場合のセキュリティは大丈夫なのかという心配の声も聞かれます。

同窓会は当然、皆様からの会費で運営されるものですから、できるだけ多くの方からの会費納入をお願いすることになりますが、そのためにはまず同窓会が会費を払って、参加しようとお感じになれる組織作りが最も重要だと思います。そのために、この副会長の任期中にやるべきことを果たさないといけないと感じております。

# KIT 同窓会 定期総会及び懇親会報告

KIT 同窓会総務委員長 森 本 一 成

## KIT 同窓会 定期総会

平成28年6月18日(土)16時から約2時間ウエスティン都ホテル京都 西館2階「比叡の間」において、中村 淳会長以下51名の出席者の下で定期総会が開催された。

議長に中村 淳会長が選出され、開会挨拶の後、2名の副会長辞任の報告があった。続いて、総務委員長から、昨年の総会以降3回の理事会の議事内容の要点について報告が行われた。

続いて、昨年の総会以後に開催された3委員会の活動状況について議長から報告があった。

以上の報告の後、以下の議題について審議が行われた。

### 1. 役員を選出

議長から、今回は、任期満了に伴う改選で、会長・副会長・理事・監事・顧問・専務理事である旨の説明があった。

まず、会長について、総務委員長から、現理事の山崎達夫氏(養蚕学科 昭和35年卒)に、会長ご就任をお願いすることが、理事会で承認されており、山崎達夫氏を次期会長として、ご提案(推薦)させていただきたい旨の説明があった。

審議の結果、全会一致で承認され、また、本人の了承も得られ、山崎達夫次期会長から、会長就任に伴う挨拶があった。

続いて、議長から、副会長候補者として以下に掲げる4名が理事会で承認された旨の説明があった。

前川輝彦氏(繊維化学科 昭和35年卒)  
小角 亨氏(建築工芸学科 昭和36年卒)  
藤沢寿郎氏(窯業工芸学科 昭和37年卒)  
森 肇氏(蚕糸生物学科 昭和57年卒)  
上記の4名が副会長に指名され、審議の結果、全会一致で承認された。

続いて、総務委員長から、理事候補者について、新任理事、24名を含む109名(氏名等略)が、理事会の承認が得られている旨の説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

続いて、総務委員長から、監事に、真多勇夫氏(繊維化学科 昭和37年卒)、遠藤久満氏(電気工学科 昭和44年卒)の2名、顧問に、松原藤好氏、本城博一氏、三好 明氏、中村 淳氏の4名、専務理事に、志賀均氏が、それぞれ、理事会の承認が得られている旨の説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

### 2. 会則の一部改正

総務委員長から、会則第7条の学生会費を値上げしたことの改正、第9条の役員選出の条項

の改正、第14条第4項の正副会長会議を明確化した改正等について説明があった後、審議の結果全会一致で承認された。

### 3. 平成27年度事業報告

審議の結果、原案どおり全会一致で承認された。

### 4. 平成27年度決算報告

議題5の平成27年度会計監査報告と一括審議された。

### 5. 平成27年度会計監査報告

村田会計担当理事から、平成27年度収支決算書(案)及び平成27年度貸借対照表(案)について資料に基づき説明があった後、遠藤監事から4月19日に福井監事と共に会計監査を行い、領収書、帳簿、預貯金通帳及び現金について、逐一照合し、精査した結果、異常は認められなかった旨の説明があり、審議の結果、平成27年度決算報告及び平成27年度会計監査報告について、原案どおり承認された。

### 6. 平成28年度事業計画

以下に掲げる事項について、審議の結果、原案どおり全会一致で承認された。

- (1) 理事会開催
- (2) 定期総会開催
- (3) 会誌の発行：第10号の発行(卒業生、在学生及び教職員に配布)
- (4) 会員名簿の維持管理：会員(約36,400名)データの有償管理
- (5) 同窓会ホームページの維持管理
- (6) 卒業記念品の贈呈：「学位記」証書ホルダー
- (7) 教育支援：「KIT 同窓会教育支援事業」
- (8) 海外インターンシップ補助
- (9) 支部活動の支援
- (10) ホームカミングディの開催(11月19日)
- (11) その他：  
①法人化推進委員会の開催、②正副会長会議の開催、③総務委員会の開催、④基金化等

### 7. 平成28年度支部等支援金

小角副会長から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された

### 8. 平成28年度予算

会計担当理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり全会一致で承認された。

### 9. その他

なし

## ■ ご挨拶

### 就任のご挨拶

京都工芸繊維大学  
理事・事務局長

**渡部 英樹**



昨年4月に京都工芸繊維大学の財務・労務担当理事・事務局長に就任いたしました渡部英樹です。同窓会の皆様にはこの場を借りまして、就任のご挨拶を申し上げます。

私は、これまで文部科学省と二つの国立大学（宮崎大・静岡大）での勤務を経験してまいりました。このたび3度目の大学勤務ということで、初めて関西地区所在の本学に赴任した次第であります。

本学は比叡山の麓の豊かな緑と数多くの史跡に囲まれた洛北の地にあり、学問・研究等を探求するうえで非常に恵まれた環境にあります。そうした中で、本学では産業の振興等の要請に応うるに足る学科等が編成され、発展を遂げてきたものと承知しております。

平成16年4月の国立大学法人化に伴い、国立大学は自ら中期目標・中期計画、年度計画を策定・実施し、成果を報告し、評価を受けることとなりました。つまりは国立大学自らが、社会的要請等を踏まえつつ、その発展していくべき方向性や手段等を決めていくことになったわけです。現在本学は、バイオ、材料、電子、情報、機械、環境などの先端科学技術分野から建築・デザインまでの幅広い分野において、ものづくりを基盤とした「実学」を目指した個性ある教育研究を行っていますが、その底流には常に建学以来培われてきた「人間の感性を涵養し、精神的な潤いや自然との調和を強く意識した、普遍性のある科学技術の創生」があることは言うまでもありません。

昨年から、第3期中期目標期間（平成28～33年度）に入りましたが、この6年間においても、本学が培ってきた伝統を大切にしつつ、工科系単科大学という特色を生かし、学長のリーダーシップの下、COC（地域の核）、COI（イノベーションの核）及びCOG（グローバルの核）という3つの機能強化の基本戦略を踏まえた各種取組を着実に推し進めてまいります。

同窓会の皆様におかれましては、本学の取り組みに対しご理解をいただくとともに、今後ともご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## ■ 退職教員挨拶

### 退職にあたって



**遠藤 泰久**

（応用生物学系 教授）

応用生物学の遠藤です。2017年3月末日で定年退職いたします。温かい教職員の皆様、優秀な学生諸姉諸兄に囲まれ、仕合せな時を過ごすことができました。心よりお礼を申し上げます。

電子顕微鏡で細胞の中を覗くことが好きで、40年も続けてしまいました。若い頃から患っていた右の網膜から視力が失われたのはミレニアムの年でした。形態学の立場から生命を考えてきた者にとって、立体視ができない隻眼となることは非常に辛いことでした。しかし、慣れてくると2次元の世界もそれなりに美しく、考えてみれば写真も論文もおおよそ2次元の世界のことと割り切って、研究も教育も slowdown ではありませんでしたが、なんとかこの歳まで辿り着きました。

大学院時代の恩師から入学時に何がしたいと尋ねられ、「生命の動いているさまをみてみたい」と答えたそうです。「短命で死んでいく昆虫の細胞をみてみたい、agingの研究をしてみたい」と話すと、「君は若いし、害虫のことも詳しいのだから、フィールドに出てみたら」と言われ、大きな捕虫網をもって畑や里山を駆け回り、昆虫の身体のなかの共生微生物を顕微鏡で覗いていました。文献を調べに京大のウィルス研や農学部昆虫学教室の図書室によく出かけましたが、「M1なら論文など読むな。自由に好きなようにやればいい。修論をまとめる時に文献を調べれば、自分の実力がわかるはず、、、」など、親身にアドバイスしていただいたことをよく覚えています。修士を終わっても研究者になるつもりもなく、製薬会社の殺虫剤開発グループで生物検定の仕事をしました。上長から「あなたは研究者なのだから」と諭され、励まされ、時に叱咤されながら、作用機構の論文で学位を取得し、研究者の道を歩き始めました。講義は苦手で、教科書に書かれていない「未だわからない」ことばかり話し、何人かの学生から何を覚えたらいいかわからない、と言われたことなど、何もかも良い思い出です。

## 一計算屋の回想と 大学当局へのお願い



小林 久 芳  
(材料化学系 教授)

この度、京都工芸繊維大学に12年間奉職し、無事に定年退職を迎えられることを感慨深く思っています。私は、公立大学、私立大学、そして国立大学に勤めることが出来ました。最後が此処でよかったというのが率直な感想です。

私は計算化学が専門で、大学院から43年間コンピュータを使いました。この間のコンピュータの進歩は信じられないもので、初めは大型計算機センターに出向いてのパンチカード入力でしたが、それがTSSに替わり、今では、当時の汎用機を凌駕するPCやワークステーションが使える時代になり、よい時代に研究者生活を送れたことを感謝しています。

本学での12年間は、教員の大学院への所属から始まり、最後の応用化学系の再編と、改組の嵐でした。このようなことは、教職員の体力、気力を削ぐので、必要最小限にすべきで、上から「何か変化はないか?」と問われて、「それでは組織改革しましょう」などは本末転倒です。私は旧物質工学に属していますが、大学院入試1つをとっても、長年かかって築いてきた物質工学独自の制度が、一瞬で反故になってしまいました。

日本人の情報発信力(論文作成能力)の低下が危惧されているわけですが、かけ声(通達)だけで解決するような問題ではないことを、要職にある人は認識すべきです。

私が着任した時には、本学は二番目のレベルの「高度専門技術者を養成する大学」であったはずですが、いつのまにか三番目の「地域産業に協力する大学」に成り下がってきたようです。京都府には府立大学があるので、地域のことはそちらに任せて本学は世界に通じる研究成果を発信すべきです。研究者に取っては、これからも苦しい時代が続くと思います。多少、身勝手と思われても、外部資金を取ってきて、論文を書くことに専念していただきたいと思ひますし、大学当局もそのような人の雑用業務を軽減するなどの配慮をしていただきたいと思ひます。

## 無事に定年を迎えて



塚原 安 久  
(分子化学系 教授)

この3月末日をもって定年退職するにあたり一言お礼とご挨拶を申し上げます。

小生が本学に赴任したのは平成3年4月で、その前は名古屋大学で10年ほど助手を務めておりました。赴任した当初は、旧3学科が統合されて物質工学科となつて間もない頃で、3学科の授業科目を引き継いでいたため授業科目がはなはだ多く、カリキュラム検討委員会でいろいろ議論したことが思い出されます。また、前任校や京都大学にあった安全委員会や安全点検がなかったので、先輩・同僚の先生方に相談させて頂いて学科の安全委員会を立ち上げたことが最近のように思い出されます。

教育研究の方では、マクロモノマー、マクロイニシエーター、テレケリックスによる新構造高分子という以前からの研究テーマで学生の力を借りて本人としては微力ながら精一杯研究を行ってきました。ここ8年ほどは若い教員の協力が得られるようになって大変助かっております。授業科目も最近でこそ減りましたが一時期は夜間主コースを含めたくさんの授業科目をかかえて奮闘しておりました。振り返ってみますと、研究においても教育においても、もう少し何とかなったのではといった気持ちになります。正に「光陰矢のごとし。少年老い易く、学成り難し。」の心境です。

大学の出来事として、国立大学法人への移行や学部の統合といった大きな変化に加え、物質工学専攻を含め応用化学系3専攻が新しい4専攻に改組されました。その約12年の間に、専攻長、部門長、国際交流室長、学長補佐等を仰せつかって大学運営に末席ながら参加できたことが良い経験となりました。また、トビタテ留学JAPANに採択された本学学生とともに文部科学省の壮行会に出席したこともつい昨日のことのように思い出されます。

その他、生協食堂・売店の建物が建て替わられて見違えるようになったこと、12号館に耐震工事の順番が回ってきて創造連携センターの建物内と実習等に仮引越しをして寒さに耐えたこと、正門の近くに60周年記念館やノートルダム館ができたことなど、10年20年のタイムスパンで見ると本学が大きく変化していることが実感されます。その一方で、12号館西出口の前の桜の老木が毎年春に立派な桜を咲かせ、秋には眩しい黄色の銀杏が見られ、これらは比叡山とともにこれからも変わらずに四季を彩ってほしいと思ひます。最後になりますが、皆様方のさらなるご活躍と本学の益々のご発展を心より期待してご挨拶とさせていただきます。長い間有り難うございました。

## 反省に次ぐ反省！ (退職に際して)



播磨 弘  
(電気電子工学系 教授)

1976年に発足後4年のまだ歴史の浅い電子工学科(電子システム工学課程の前身)に助手として雇って頂いてから早くも40年余過ぎました。よそに勤めた途中の10年間を差し引いて30年の長きに渡って本学にお世話になったことになりました。月並みな感想ですが、これまで私を導いて下さった多くの方々に只々感謝の気持ちで一杯で、何よりもまずこの場を借りてこの気持ちをお伝え致したいと思えます。本当に有り難うございました。

着任時を振り返ると、地理が分からぬまま京都駅から乗った松ヶ崎行き(14番?)の市バスをやっと降りて初めて見た比叡の秀麗な山並み、そして静かな松ヶ崎キャンパス内の美しい緑に深く感動した印象は今も生き生きと残っています。この40年間でキャンパスの建物は美しく変容しましたが、当時の美しい緑は全く損なわれず残されていて、早朝の賑やかな小鳥のさえずりと共に体感できるのはとても感動的です。

仕事面をひとことで振り返ると、反省に次ぐ反省(講義のこと)であったように感じます。受講生全員に内容をよく理解してほしい、面白みを感じてほしいとの高い理想が当初あったのにそれが少しずつ色あせ、やがて6、7割の学生さんを導いたら成功と思えるようになったのですが、それさえ実現はかなり難しいというのが今の実感です。何度経験しても、うまくいかなかった講義後はいつも結構落ち込みました。次回こそ、次年度こそはと思いながら改訂を加えて来ましたが、それでも平均すれば成功した講義はざっと4分の1程度だったのでしょうか。教えるのはとても難しいというのが結論です。

仕事のもう一方、つまり研究面では楽しい思い出が数多くあります。論文の共著者名を見るたびに学生さんの顔が浮かんで来て、今はどうしているだろうかという思いを巡らします。そんな楽しい時間が持てるのは長い教員生活へのご褒美と感じています。

## 3つの感動



森本 一成  
(情報工学・人間科学系 教授)

本学の教員として多くの学生と接してきました。教育研究の様々な場面において数々の感動がありました。その中から3つご紹介させて頂き、育てて頂いた本学への感謝としたいと思います。

電子工学実験でグループごとに実験方法を説明していた時のことです。ある一人の学生の反応がおかしいのです。私の説明に対して頷きがありません。彼は聴覚障害者でした。彼にはそれを知らなかったことを詫言、グループの学生に要約筆記をお願いしました。障害者支援法もない頃のことで、学生実験の担当教員からは聴覚障害の学生の存在を知らされていなかったのです。後に、彼は卒研で私たちの研究室に来て、手話アニメーション生成に関する研究を行いました。彼の就職先が情報関連の企業に決まったときは、彼の不断の努力が報われたのだと感動しました。

手話アニメーションの研究に関してはもう一人忘れられない学生A君がいます。彼の研究熱心さは群を抜いていました。彼はよりわかりやすい手話アニメーションを生成するにはどうすればよいかについて真剣に取り組みました。キャンパスプラザ京都で開講した実践ユニバーサルデザインの講師として、京都府聴覚障害者協会の事務局長をお招きすることがありました。その方は聴覚障害者でしたが、会話をしていくうちにA君の弟だということがわかりました。実は彼はお兄さんとよく喧嘩をしたので今も疎遠だと言いました。私は研究室でお兄さんは手話アニメーション作成に必死で取り組んでいたことを伝えました。弟さんは「それは知らなかった、早く仲直りしたい」と言ってくれました。その時、彼の素直さに心打たれ本当に嬉しい気持ちになりました。

3つ目は教育の一環として行った東日本大震災の被災者支援活動のことです。ご承知のように震災直後は多くの機関が支援に駆けつけました。私たちも学生と一緒に福島県南相馬市原町ほかの障害者施設の支援に行きました。震災後3年目にある障害者施設に行った際、「あなたたちが初めて来てくれた」と言われました。まだまだ取り残された所があることを思い知らされた瞬間でした。翌年も同施設の支援に行きました。「まさかまた来てくれるとは思わなかった」と言われました。前年に私たちの教えた方法を応用して、障害者とのコミュニケーションのための様々な工夫をされているのを見た時は感動しました。

誰かのことを忘れていないかを常に自問自答し、忘れられがちな立場から発想のできる学生が育ってくれることを願っています。37年間、本当にありがとうございました。

改組に振り回されながらも  
多くを学ばせて頂いた  
30年間に感謝



大倉 弘之  
(基盤科学系 教授)

1986年10月に一般教育等の助教授として赴任して以来、本学で約30年間数学の教育研究に関わってきました。当時、ドクターコース設置と夜間3年制の短大を4年制の夜間主コースに転換するという改組が進行中でした。その後、設置基準の大綱化で一般教育等という教員組織は解体される流れの中で、当時の機械システム工学科に所属することになりました。この大綱化では、趣旨を謳う文書では教養教育がいかに重要かを説きながら、それを担ってきた枠組みを解体するという何とも不思議な状況に違和感を持ちながら流されてきました。機械システム工学科では卒業研究や修論指導を通じて学生との密接な関係を持ち、大学教員としての幸せな時期を過ごさせていただきました。当時、機械システム工学科の教務委員長として、JABEE（民間の工学教育質保証システム）対応に深く関わったことは、三大学教養教育の機構で質保証に深く関わっている現在につながる因縁でしょうか。国立大学法人化後、基盤科学部門（後に基盤科学系）に属したことにより、教養教育を含む大学の基礎教育の重要性に高い意識を持った教員のコミュニティの一員として大学教育に関わり、数学サポートセンターの開設なども実現し、大綱化以来の違和感を払拭できるかと期待していました。しかし、学校教育法の改悪があり、2年前の改組では、研究組織と教育組織の分離により、「基盤科学系」はそれまでと同じ名前でも、全く異なる組織となり、それまでのコミュニティ機能が失われたことは残念です。一方、ここ数年、数学の教養科目の中で数学の歴史に関わり、数学が古代より高度な政治技術として人と関わってきたことなどを学生と共有することができたことは、大変意義深い経験でした。1年前から福島原発事故による健康被害を統計学的に評価することに関わり続けていることも、社会的責任であると同時に、本来の数学者の人との関わり方であると感じています。

## KIT 同窓会支部・部会

### KIT 同窓会浜松支部 (浜松工繊会) 便り

浜松支部 上野 宏 史  
(機械工学科 昭和50年卒)

平成28年度の浜松支部の懇親会は11月26日に例年と同じく、浜松駅前のアクトシティにある「サゴー浪漫館」にて実施致しました。今年度はヤマハ発動機に5名の卒業生が入社されその中の3名にご参加頂け12名での開催となりました。

ここ数年は若手の参加が無くともすれば年金生活の話題になりがちだったのですが、今年度は海外での活躍を期待される社会人1年生に先輩諸氏が若き日の海外勤務や長期海外滞在出張での武勇伝や苦労話でエールを贈り、また遠州地区生活の良さを伝えるなど非常に会話が盛り上がりました。

残念ながら中堅世代の方々には海外出張など多忙な状況とのことで参加頂けなかったのですが、次回は是非とも参加頂いて現役でバリバリと活躍中の先輩諸氏からのアドバイスを若い世代に語って頂ければと思います。

遠州の地に住む同窓メンバー間の異業種交流と年代を超えた情報交換を軸に絆を深めるといふ会の主旨に相応しい場となり、若い方々も参加するのが楽しみという会になり平均年齢がぐっと下がるように今後も幹事で努力したいと思えます。

今回はヤマハ発動機の先輩諸氏の努力で新卒の方々の情報を把握できましたが、他の企業ではなかなか新卒情報の把握が難しい状況です。もしこのKIT 同窓会誌をご覧になった遠州地区在住となられた方がおられましたら是非とも上野まで連絡下さい（メールアドレスは下記です）。



E-mail : uenoh@yec.co.jp  
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社  
E-mail : uenohpapa@aol.com (自宅)

# 関東支部の近況と知的財産権の現状分析

関東支部長 市野 要 助

(機織工芸学科 昭和43年卒)

## 1. 年次大会

2017年1月17日、定例の新年会兼総会が霞が関の文部科学省の近く、首相官邸の下のレストラン街の佳佳で個室を確保して行われた。今回は、初参加の中国国籍の蔡ツェン氏によって、最近の中国事情が開陳された。蔡氏は建築学科系の大学院終了後日立医療機器関連の仕事をしてきた。

日中の歴史的な和解を切望して日夜努力されている。我々同窓生も和解には異論はなく、今後の日中の協力方向について意見を交わした。中国語が堪能で中国事情に詳しい蔡氏と意見交換が出来て、同窓会員諸氏は有意義な会合を過ごすことができた。今後は、新しい人材を同窓会に参加してもらうように不断の努力を重ねて同窓会新年会・定例総会を盛り立てていく予定です。

## 2. 関東支部の発展構想

会員の連絡網は事務局からの電子メール網で行われている。

今後は、随時会員各位の近況を簡単な手段で交換できるように、facebook を通じて行うこととする。5月から6月完成を期して、事務局次長の原 茂樹氏を介して創造中です。facebook を通じて、関東支部域内のみならず、広く世界中の KIT 会員諸氏からの投稿を自由に交換できるように利便を図っていくことが確認されました。

## 3. 知的財産権の動向：内閣府知的財産戦略本部の方針

小泉政権時代に特許権等の知的財産権を保護強化する政策が実施された。

このプロパテントの流れに沿う形で、日本も特許等と保護強化政策に邁進してきた。近時世界経済のボウダーレス化、グローバル化に対応するべく日本では知的財産戦略本部の志向する「知的財産推進計画」に沿って、知的財産権の権利の強化・保護に全力を傾け、迅速な権利付与・強力な権利範囲の創造に注力して今年度は「知的財産推進計画2016」を経済産業省・特許庁および産業界が一体的に協力推進している。

法曹界や財界等の支援協力が奏功して世界的にも、ヨーロッパ、米国に並び称される効果的な知的財産権の保護体制が整えられつつあります。

自由主義経済を志向する米国・日本・環太平洋の自由主義経済国家が協力して TPP を実行せんと協議中であった。米国の大統領府のスタッフから提案されてきた TPP 体制は、全体主義的な中国政策とは相いれないものであったが、オバマ政権の終焉とトランプ政権の方針転換によって風前の灯のようである。

日本弁理士会は、知的財産制度改革推進室を設け、「知的財産推進計画」を強力に推し進める方向で弁理士会内の政策協調を実行してきた。今年度は市野も弁理士会の執行理事の一員として、この政策に恭順してきた。

弁理士会の、中央知的財産権研究所、知的財産支援センターの担当役員として、100数十名の委員、運営委員等と協力して働いてきた。また、日本弁護士会と協力する ADR 機構で、複雑・高度化する知的財産権訴訟事件を簡素で迅速処理で裁判の補完的な遂行の役割実行につながる力として、その担当役員の一人として尽力しました。共に働くうちにいろいろと知見を深め有意義な一年を過ごさせていただきました。一緒に協力して頂いた200名余の弁理士先生方に敬意とお礼を申し上げます。

## 4. 支部連絡体制

当面は、事務局長は林 佳輔氏が行い、原茂樹氏は事務局次長として補助する。

水垣親房副支部長は、監事の徳田莞司氏と協力して市野要助支部長を補助する。

アドレス：

市野要助 cfipt1508@clock.ocn.ne.jp

林 佳輔 事務局長 hk@tylaw.jp

URL : <http://www.tylaw.jp/>

Facebook : <https://www.facebook.com/home.php#!/kitdousoukaikantoushibu>

6月ころから、事務局次長の原茂樹氏の新しい facebook アドレスが開設の予定です。

(2017.1.25 記：市野)

## 平成28年度 KIT 同窓会東海支部総会開催される

東海支部支部長 福永昭三

(色染工芸学科 昭和40年卒)

平成28年11月26日(土)、名古屋駅前の「オフィスパーク名古屋プレミアホール」にて、KIT 同窓会東海支部総会および講演会を、そして場所を北京料理「百楽」に移して、懇親会を開催致しました。本年度も、参加者が84名(うち女性10名)、また、現役世代(65歳以下、1973年以降の卒業年次の方)が85%と、例年通り、盛大に催すことができました。

福永支部長の挨拶に続き、来賓の森副学長、山崎同窓会長のご挨拶の後、平成27年度事業報告、会計報告が満場一致で承認されました。

講演会は、初めに森副学長から、「母校の近況」という演題で、大学改革の状況及びスーパーグローバルユニバーシティとしての活動が紹介されました。次いで、今年度は特別講演として「本格的拡大期に突入した繊維強化複合材料」というテーマで、下記の方々にご講演を頂きました。



初めに福井ファイバートック(株)代表取締役社長福井英輔氏(平成13年先端ファイブ科学専攻 博士前期課程修了)から「革新的テキスタ

イル技術と複合材料技術の融合を目指して」という演題で、漁網から最先端の複合材料の開発・生産までのニッチトップとしての苦節30年の取り組みや国内に1万kmある耐用年数50年を過ぎた地中配管を掘り起こさずに改修できる画期的な技術等のご紹介を頂きました。



続いて、岐阜大学工学部仲井朝美教授(平成6年高分子学科卒)より、「連続繊維強化CFRPのハイサイクル成形」と題して、複合材料の学術的な定義をはじめとして、航空機や自動車の軽量化のキーとなっているCFRPがさらに広く展開されていくための最新の研究開発動向を大変わかりやすく、ご講演を行って頂きました。

午後5時30分からは会場を「百楽」に移し、懇親会が開かれました。大先輩から、新社会人までの1分間スピーチなどで大いに盛り上がった懇親会の最後は学歌を歌い、記念写真を撮って、無事終了しました。

東海支部では本年度の総会を平成29年11月25日(土)に、「ウインクあいち」での開催を予定しています。多数のご参加をお待ちしています。



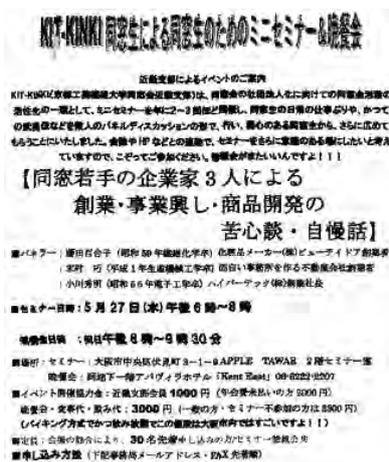
# KIT 同窓会近畿支部 (KIT-KINKI) のあゆみ

近畿支部 幹事長 河島 博  
(機織工芸学科 昭和45年卒)

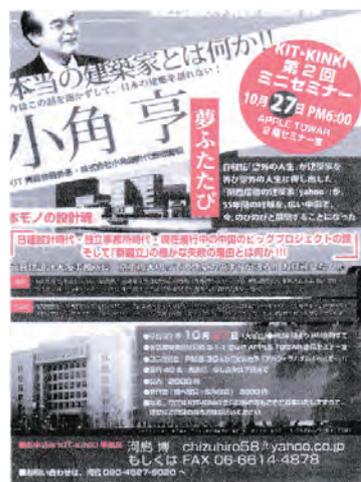
本格的に活動をはじめ3年になりました。年1回の総会・セミナーと、年2回は少人数で充実したセミナーと懇親会が活動の中心です。3年かけて近畿支部該当者(約2万人)のリストができました。最近2年間のセミナー案内が下記です。皆様と一緒により良き支部へ進めていきたいと存じます。



開催：平成27年2月8日  
講師：坂本晶子 様  
(株式会社ワコール)  
題名：ワコールの科学的なモノづくり  
出席：92名



開催：平成27年5月27日  
講師：藤田百合子 様  
(ビューティードア株式会社代表取締役社長)  
小川秀明 様  
(株式会社DNPハイパーテック代表取締役社長)  
末村 巧 様  
(合資会社マツトシテイ社長)  
題名：同窓若手3人による創業・事業興し・商品開発の苦心談・自慢話  
出席：24名



開催：平成27年10月27日  
講師：小角 亨 様  
(株式会社小角設計代表取締役)  
(元日建設計取締役大阪事務所長)  
題名：本当の建築家とは何か  
出席：31名



開催：平成28年1月23日  
講師：堀江康生 様  
(株式会社イエローハット代表取締役社長)  
題名：繊維学部卒がなぜイエローハットの社長をしているのか  
出席：63名



開催：平成28年7月10日  
講師：藤井雅彦 様  
(株式会社ワイエムシー取締役副社長)  
(元株式会社クレハ代表取締役執行役員)  
題名：癌と免疫の話  
出席：24名



開催：平成28年12月4日  
講師：荻野 毅 様  
(ミスノ株式会社主任研究員)  
題名：冬季オリンピックで着用されたスキー/スケートスーツの概要説明(実物展示を含む)と空気力学特性について  
出席：26名

連絡先変更、E-mail アドレス登録は、事務局の河島(chizuhiro58@yahoo.co.jp)までご連絡をお願いします。

## 熊本県支部の活動について

熊本県支部 幹事長 中西 憲 弘  
(養蚕学科 昭和51年卒)

活動のお知らせの前に、昨年4月14・16日に発生しました熊本大震災につきまして、温かな支援をいただきありがとうございました。「がまだすばい(頑張ろう)熊本」をスローガンに地元では復興に邁進しています。

さて、熊本県支部の活動ですが、総会は毎年春に行っています。昨年は4月3日に熊本市熊本城内の加藤神社(加藤清正公を祀る神社:前名誉宮司が本校卒業生のため毎年会場借用)で開催し、松原名誉教授を来賓に12名の会員が集い楽しい時間を過ごすことが出来ました。

今回の総会で役員改選が行われ、支部長に岡博司氏(生機・S49)、副支部長に川上正人氏(養蚕・S44)、坂口 康氏(養蚕・S32)を選出しました。

特徴的な事は、今回初めて工芸学部からの支部長選出となったことです。

本支部の課題としては、会員数の減少です。ここ数年支部を支えて頂いていた高齢会員の死去が相次ぎ、寂しい思いをしています。新支部長の元、出来る限り多くの会員を集めたいと考えています。

新しい動きとして、熊本県内では全齢無菌人工飼料周年養蚕が進められています。1例目は、地元企業「あつまるホールディングス」の養蚕施設(山鹿市)で、1回に14箱飼育、年間24回を目標にし、当面は特徴ある繭生産、将来は遺伝子組替え蚕飼育や化粧品・サプリ・医薬品等の原料製造なども目指しています。2例目は、峯樹木園(合志市)で、1回5箱で冬虫夏草の生産を進めています。2つの会社にはそれぞれ本支部会員が指導に関係しています。

## 「色染物質会」活動報告

色染物質会 会長 高木 恒 男  
(色染工芸学科 昭和47年卒)

平成28年度(第6期)の色染物質会活動実績及び予定を報告いたします。

- 1) 会誌7号発行(A4判32ページ) 平成28年4月
- 2) 第6回総会・懇親会開催 6月  
於 メルパルク京都 22名参加
- 3) ゴルフコンペ開催 11月  
於 枚方国際ゴルフ倶楽部 11名参加
- 4) 役員会・新年会 平成29年1月  
於 點心茶室(伊勢丹11F) 19名参加
- 5) ホームページの更新 随時

今後の予定

- 6) 散策会 3月

今期も永遠の課題であります会員増強において会員の皆様の幅を広げて往復はがきを出しましたがあまり増強効果がありませんでした。

そこで役員の皆様から同年卒業の皆様には役員様のお名前での往復はがきを出して頂いたところ、反響がありました。やはり会の名前よりは会員個人のお名前での勧誘活動が効果が出ました。ただ、何回もするといかがなものかとも思います。しかし、2~3回は効果があると思います。

ホームページ関連につきましては昨年は訪問者数が3万人に達したところでしたが本年度には4万1千人を超えるに至りました。1年間で1万1千人もの訪問者あり投稿内容に相当魅力があるのだなぁと思いました。

今後も魅力ある投稿があることを期待いたします。

また「各年度同窓会だよりも同年度卒業生には何よりの楽しみとしますのでぜひとも同窓会だよりを投稿してください。」と同窓会の皆様にお伝えしようと考えております。



2017年1月29日 色染物質会新年会  
(JR 京都伊勢丹内 點心茶室にて)

## 愛媛県支部便り

愛媛県支部 事務局 家村 真之

(養蚕学科 昭和45年卒)

愛媛県支部は、平成26年5月に本部から三好会長・中村副会長、本学から森副学長にお出でいただき第1回総会を開催。

第2回は、平成27年7月初めに森副学長のご出席を仰いで開催しております。

今回、第3回は28年7月末に本部山崎会長のご出席をいただき、盛大に開催いたしましたと言いたいところなのですが写真のように10人のみ。会員100人に案内状を送付していますが歩留まりが悪く、毎年寂しい限りです。

山崎会長からは、同窓会費の納入を強く要請されました。

毎回同じように、事務局の悩みは、総会への出席者数が少ないことです。次回は本部を除いて、出席会員20人を目指します。

実現可能な数字で、今回も若手会員数人から、「次会は必ず」との色よい返事をいただいているところです。

事務局がいつも頭を悩ませているのは最低年一度の活動（研修、見学、親睦）なのですが、私の方に知恵が無く困っております。

今まで知恵者のK君が事務局の中で会計担当してくれていたのですが、5月末、突然、「健康診断で癌が発見された、現在進行形、予断を許さない状況。フリーにしてくれ」との連絡が入り、急遽、私に全てを託されてしまいました。

幸いなことに、K君の癌は、患部を全摘出し、今は通院となっておりますが、幸いでないのは、事務局です。何の計画も出さないままずると日めくりだけが剥がされています。

私も現在白鳳会館に勤務しています。愛媛県人権対策関連の仕事ですが、「同和問題」「ハンセン病」「いじめ」「LGBT」「ヘイトスピーチ」等17項目ほどありますが、依然として“差別”は横行し、無くなることはありません。

人権問題は、奥が深く、お蚕の技術屋には荷

が重いのですが…。

愛媛県は、ご承知のとおり東西に長く高知県境には、西日本最高峰の石鎚山を擁し、東側の新居浜市には1690年に発見され、180年間採掘されていた別子銅山があり、その標高1,294mのところ東洋のマチュピチュと呼ばれている東平（とうなる）があります。

また、西予市“ジオパーク”には、約4億5千万年前の地層が露出し、13のジオサイト（特徴的な地層や地形）等見所が一杯（日本の地層の大部分は、2億5千万年前）。

年が明けて平成29年は、正岡子規・夏目漱石生誕150年の記念祭が予定されており、また、第72回えひめ国体も5月末から開催されます。

全国のKITの皆様、道後温泉に来て、ついでにあちこちへ。美味しい物もありませ！

特に、2種類の鯛飯、一つは炊き込み、もう一つは熱々のご飯の上に鯛の刺身、濃いめの出し、生卵の組み合わせです。また、“どろめ”と呼ばれるカタクチイワシ（ちりめんじゃこ）の茹でる前の生をご飯の上に大量に乗せて、美味しいですよ。鱗から目が落ちます。

愛媛県は見所・研修先は何処にでも転がっているのですが、事務局を預かる私に知恵が無く人集めの難しさに悩んで居ります。

私案ですが、四国4県に声を掛けて見ようかと…。



## 「滋賀のよさ見直し」 滋賀支部活動

支部長 中村 成 臣

(繊維化学科 昭和43年卒)

2015年秋、発足した滋賀支部は、「一生青春・ワクワク活動」を目的に、先端領域の学習活動、大学の応援団的活動、それに、我々の住む滋賀県の素晴らしさの再発見活動をめざしてやってきました。その具体化のため2ヶ月に1度の割合で理事会を開催、毎回、忙しい仕事をもった約10名の理事が、ワイワイと会合自体が充実した活動になる検討を重ねてきました。結果、初年度企画事業として、年次総会開催と一緒に、滋賀が誇るヴォーリス建築を近江八幡市に探訪することにしました。幸い、わが支部には全国ヴォーリス建築ネットワーク代表幹事である本城顧問がいます。氏の全面的協力により、昨年秋、メンソレータムで有名な近江兄弟社の学園内にあるハイド記念館で、館長から、明治以降、近江八幡をはじめ全国に多くの著名な建築物を残したウィリアム・メレル・ヴォーリスと、当地との関係についてのお話から見学会は始まりました。地下に使用人の住居を設計した誤りを、ヴォーリス本人から指導を受けた本城顧問の話も聞きながら、旧近江八幡郵便局、ヴォーリス記念館、池田町洋館街、最後に、ハイド記念館を見て回り、種々の建築物を残したヴォーリス氏の温かで豊かな人間性に触れることができました。

見学後、記念館の大会議室をお借りして年次総会を開催、支部発足後の活動を、6回の理事会開催、3回の機関紙発行、多くの同窓会本部事業への参画、今回の見学会など、充実した活動ができた一年であったと総括し、次年度も、社会貢献活動も含め、さらに活動を深めていくことを、参加した30数名全員で確認しました。

その後、少しはなれた「酒遊館」という酒蔵跡の瀟洒な会場で、懇親会が開催されました。そこでは、森本副学長から大学の近況説明があり、活躍する在校生や大学の社会的評価が上がりつつあることが報告されました。また、近江八幡在住とのことで参加いただいた大学教員の木村良晴先生からも、地元に関する多くのお話をいただきました。また、会員の佐藤敏夫さんからは詩吟の披露、井上良一さんからは、能楽にかける思いをのべていただきました。有意義な時間を惜しみながら、再会を期して散会しました。今後、開催する企画事業へ関心ある方は、支部連絡先：増田 豊 (E-mail: qrmy10598@gaia.eonet.ne.jp) まで連絡ください。



# 衣笠同窓会だより ご挨拶と衣笠同窓会の今後の在り方について

衣笠同窓会 会長 山崎 達夫

(養蚕学科 昭和35年卒)

平成28年6月の総会で会長にご推挙を受け就任いたしました。同窓会活動から離れた立場にいた私が、突然表舞台に立たされ聊かの戸惑いもありますが、皆様のご支援ご指導のもと懸命に職務を全うし責任を果たす所存ですので宜しくお願い申し上げます。

私に課された、大きな課題は、歴史ある衣笠同窓会の再生であり、会員の皆さんの想いに寄り添った効率的な運営であると認識しています。

繊維学部廃止から既に10数年が経過し、新会員の参入はなく、全国に展開していた県支部でも高齢化と会員数の急激な減少を受け通常の活動が停滞を来し、一方では支部の解散が続いています。

また、KIT 同窓会の支部結成の基盤としての衣笠支部組織の改編、改組も進み、主要地域では積極的にKIT 支部への協力参加により会員の移動が進んでいます。衣笠同窓会のKIT 同窓会での位置付は構成組織の一部会ではありませんが、KIT 同窓会の活動に前向きに参画し、会の発展に寄与出来るよう努めているところです。

卒業生の「衣笠」への心情は今も深く、脈々と継承され、今後とも会員の紐帯は固く、次代に引き継がれて行くものと信じています。

他方、衣笠同窓会の現状を見る時、此の先の在り方について冷静に、真剣に考えて見たいと、昨秋、会の中に特別委員会を設置し検討を重ねて来ました。その答申案が去る2月4日、4回に亘る委員会での検討の結果として纏められ、2月28日開催の正副会長・顧問の合同会議に諮問され、承認されました。

その「基本方針」は次の通りです。

## 「衣笠同窓会の今後の活動の在り方について」(概要)

1. 衣笠同窓会の組織を残置したまま、日常活動を休止する。
  - 支部活動については各支部の裁量に一任する
  - 新設の資金管理団体が衣笠同窓会を所轄する
  - KIT 同窓会の部会には、そのまま「衣笠同窓会」の名称で所属する
  - 会としてこれまで行ってきた一般管理経費、

2. 衣笠同窓会が保有する資産を管理運営する新たな管理団体を設置する。
  - 衣笠同窓会から資金の移管を受けて、新たにファンドとして運営管理する団体を設置する  
名称：「衣笠みらいファンド」(仮称)  
基金額：1,600万円(仮定)
  - 本理事会での承認を得て、基金設立準備委員会を立ち上げる
  - 資金の運用、寄付助成等の活動業務方針は別途協議するが、基金の有効な活用を目指し、広く繊維に関する研究助成や繊維の振興に寄与する寄付行為等を通じ、母校の発展や社会貢献に資することを目的とする
3. 今後の協議と予定
  - ①本理事会終了後
    - 各支部組織に経過報告と総会までのスケジュールを通知、合わせて、全会員に向け告知
    - 準備委員会の発足と専門部会での役員、規約等必要事項の検討に着手
  - ②6月 理事会、定期総会
    - 方針の決議、新ファンドの設立承認
    - 総会終了後、新組織「衣笠みらいファンド」(仮称)の設立総会の開催
  - ③10月～11月
    - 地域別ブロック会議(説明会)の開催実施

本件に関して、近々理事会を招集し、協議を行う予定です。その上で、本年6月開催の総会議案として提出します。また、理事会後、速やかに全支部に理事会決定内容の通知を行い、全会員の皆さんにも方針の伝達と説明の広報活動を行います。

会員の皆さんには、大変重い決断を求める事案ではありますが、先人が残してくれた貴重な資産を衣笠の伝統、心情を持って生かし切る有益な方法で活用して、繊維産業の広い分野での学術研究や開発啓蒙等に対する助成・寄付行為を通じ社会貢献の一助としたいと思います。何卒、ご理解、ご賛同を頂きますようお願いいたします。

## 平成29年度 総会のご案内

平成29年度衣笠同窓会を次の日程で開催いたします。皆様方におかれましてはご多用とは存じますが、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

日時 平成29年6月17日 午後2時より

場所 ウェスティン都ホテル京都

- 議題
1. 平成28年度事業報告及び決算報告
  2. 平成28年度会計監査報告

3. 衣笠同窓会の今後の運営と「新ファンド組織」の設立について  
当日同ホテルで京都工芸繊維大学同窓会の総会、懇親会が開催されます。  
衣笠同窓会のみにご出席の方は下記にご連絡下さい。

連絡先 電話：090-4305-3960 (山崎)

E-mail：aa.kinugasa@gmail.com.jp

## 京工大機織会（マコーン会）の活動

マコーン会事務局長 菱川 茂 樹

（機織工芸学科 昭和42年卒）

平成28年の京工大機織会（マコーン会）の活動状況について報告。

- 1) 平成28年3月4日(金)役員会：年2回発行の「マコーンニュース」No.97（A4サイズ、28ページ）が出来上がり会員約420名への発送と、平成28年「定時総会」の準備について打合せ。
- 2) 平成28年4月16日(土)クラス幹事会：大阪梅田の「ニュートーキョウ」に各卒業年度のクラス幹事21名が集まり、「定時総会」への出席者の確認と更なる増員の勧誘を計った。
- 3) 平成28年5月9日(月)役員会：「定時総会・懇親会」の最終準備と打合せ。
- 4) 平成28年5月21日(土)定時総会：創立56周年「定時総会・懇親会」を「ホテルプリムローズ大阪」で開催。まず、新井克彦氏の講演「地球2周南半球・北半球の船旅」スケールの大きなクルーズと100日に及ぶ船内生活のビジュアル紹介に知見を広めました。丸田恵都子さんのパラグアイ・ハーブの演奏と海外青年協力隊のトークを楽しみま

した。

総会・懇親会には来賓5名・会員56名が参加して親睦を深めました。

懇親会では、母校の渡部英樹理事より大学の近況と大学の充実発展振りを伺いました。続いて S22年卒・一見輝彦氏の発声で乾杯し、各ご来賓のご挨拶。その後、会食、歓談、記念撮影を行い、最後に京都工芸繊維大学学歌を合唱、和気藹々の内に散会致しました。

- 5) 平成28年9月5日(月)役員会：「マコーンニュース」No.98（A4サイズ、28ページ）の印刷・製本が出来上がり、会員約420名へ発送。
- 6) 平成28年12月7日(水)役員会：平成29年5月27日(土)に29年度「定時総会・懇親会」を「ホテルプリムローズ大阪」で開催する事を決定し、催しとして、石田充宏氏の講演「老後に知っておきたい資産と相続」と湊由加里さんの郷土民謡の演奏を決めました。併せて次号「マコーンニュース」No.99（3月10日発行予定）の編集打合せを行いました。



総会・懇親会の様子

## KIT ゴルフ会便り

幹事 谷 垣 弘 明  
(製糸紡績学科 昭和43年卒)

毎回多数のご参加を頂き KIT 同窓会になり  
15回を数えました。

新入会員の募集も行っています。

参加ご志望者は下記幹事までご連絡ください。

### (1) 第15回 KIT ゴルフ会結果

秋晴れの絶好のゴルフ日和のもと瀬田ゴルフ  
コース東コースで開催した。

\*開催日：平成28年10月19日(水)

\*場 所：瀬田ゴルフコース・東コース

\*参加者：19名 (1名 途中棄権)

優 勝 坪井弘光 (機織33年)

G-93 HC-20.4 N-72.6

準優勝 松原 衛 (機織43年)

G-86 HC-13.2 N-72.8

3位 森橋俊文 (機織39年)

G-90 HC-16.8 N-73.2

### (2) 第16回 KIT ゴルフ会

\*開催日：平成29年4月19日(水)

\*場 所：東城陽ゴルフ倶楽部

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

幹事 松原 衛 090-6738-4214

谷垣弘明 090-5152-5824



## 交扇会 (平成28年) 活動報告

井 上 良 一  
(繊維化学科 昭和33年卒)

### \*交扇会 初夏の会 (第47回)

7月28日開催 於 大津市伝統芸能会館

番謡一管：竹生島

舞囃子：吉野天人、胡蝶、融

仕舞6番

素謡：兼平、蟬丸、三井寺、善界

(ご当地曲とした。)

### \*交扇会の周知活動

OBの活動として評価を頂き、部会として承認された交扇会であるが、出所である能楽の同好会は母校に於いて消滅している。その再興のために現役学生との交流の場を求めていたところ同窓会の活性化委員会に招集をうけ、其の企画するホームカミングデイの事業の一環として学園祭当日に周知活動の展示会場を提供いただき2日に亘り活動を行った。

開催日：平成28年11月19・20日

会 場：1号館 0112教室 (写真参照)

テーマ：「世界に羽ばたくために日本の文化も学ぼう」

(展示内容)

- 学生諸君への呼びかけ (A1版)
- 能楽部から交扇会に至る活動年表
- 年表に対応する資料
- OBより現役学生へのメッセージ
- 能を主題とする美術品  
軸、色紙、人形、袱紗、ポスター
- 能面 OB 榎原氏の作品 5点
- プロジェクターによる能楽映写  
OB 竹本氏出演 能楽「船弁慶」他



# 京都工芸繊維大学剣友会の活動紹介

会長 中村 良光

(生産機械工学科 昭和41年卒)

剣友会は母校剣道部卒業生の集まりで、昭和43年に発足し今年で48周年を迎えます。本学の前身校の卒業生も含め、現在に至るまでの剣道部在籍者が会員で、現在の会員登録数は270名で、三世代にまたがる会員で構成されています。

剣友会は、会員相互の親睦・交流を図るとともに、母校剣道部の発展に寄与することを目的として、継続的に熱心な活動を続けています。

年間行事として種々の行事を開催いたしておりますが、最も大きな行事として毎年秋に『剣友祭』を開催いたしております。この剣友祭の開催は今年で10回目になりますので、その概要をご報告いたします。

第10回『剣友祭』(10月29日)  
本学「工織会館」にて

## 【会員による講演会】

### ①「モロッコで暮らしてみて」

昭和46年卒 林 真至さん



モロッコに研究員として何度か滞在されている経験から、モロッコの街、人、文化などについてお話いただきました。

馴染みが薄い国でしたが、多くの写真と共にお話いただいたため(旧市街の写真は特に印象的でした)、あたかも自ら旅行に行き実際に見てきたかのように、モロッコという国の雰囲気を感じることができました。

### ②「自動車の自動運転は実現するか？」

昭和43年卒 上田 敦さん

自動車機器の業務に携わっていた上田さんからは、自動車の自動運転についてお話いただきました。今非常に注目されている自動運転技術



ですが、自動運転の定義、ロードマップや各社の動向、自動運転が現在抱える問題点まで解りやすくお話しいただき、より具体的に自動運転についての理解を得ることができました。

## 【現役報告】



講演会の後は、現役部員の自己紹介に続き、三回生の奈良主将に現役部員の活動報告をしていただきました。今年は三織、六工ともに団体戦での入賞を果たせなかったとのことですので、来年はより良い報告が聞けることを期待しております。

## 【懇親会】

最後に全員参加の懇親会を生協ホールで賑やかに開催いたしました。(参加54名)



## 平成28年度硬式野球部 OB・OG 会活動報告

会長 山中 寛城  
(色染工芸学科 昭和37年卒)

硬式野球部 OB・OG 会 (以下、本会) は京都工芸繊維大学同窓会 (KIT 同窓会) の1部会として、平成26年度に承認された新しい部会です。本会は本学の硬式野球部に所属した部員やマネージャーを務めた卒業生より構成され、会員相互の親睦を図るとともに京都工芸繊維大学硬式野球部の支援を目的としています。本会では毎年、OB・OG 会誌の作成・発送 (3月)、年一回の総会開催 (5月) と OB 現役親睦野球大会の開催 (11月)、さらに春期及び秋期リーグ戦に必要な費用を一部補助しています。

本年度の主な活動は以下の通りです。

- 1) OB・OG 会誌の発送：平成28年3月に本学硬式野球部の状況や主将、監督、マネージャーの挨拶文を含んだ会誌に加え、春期リーグ戦の試合日程表、昨シーズンの戦績、総会の開催通知、および会費振込用紙を同封し、本会会員約230名へ発送しました。
- 2) 総会開催：平成28年5月5日 (木曜日祝日) 午後6時30分より、京都工芸繊維大学中央門付近にあるKITプラザにて、議題①OB・OG 会の今後の運営について、②平成28年度予算 (案) について、③その他について審議し、承認いたしました。また、報告①平成28年度春季リーグ戦の戦績について、②平成28年度の会計中間決算について報告されました。総会終了後は現役野球部員と共に懇親会を開催し、大いに盛り上がりました。
- 3) OB 現役親睦野球大会の開催：毎年11月に京都工芸繊維大学グラウンドにて現役部員と OB チームとの対抗戦を実施しておりましたが、今年度は平成29年3月に開催予定です。
- 4) 春・秋期リーグ戦の分担金補助：リーグ分担金は春期、秋期共に約40万円程度、年間80万以上は必要ですが、今年度は春期80,000円、秋期120,000円を本会より補助しました。

## 千花会の活動報告

荒谷 善夫  
(繊維化学科 昭和37年卒)

千花会は、繊維化学科の同窓会であった「織化会」が解散になった後を引き継ぐ形で、2001年に繊維化学科の数少ない女子卒業生が中心になって発足した繊維化学科卒業生の有志ならびにご縁のある先生方などの親睦の会である。発足してから2年に1回の割合で総会懇親会を開いてきているが、2014年からはKIT 同窓会活動の一環と言うとらえ方も必要だろうということになりKIT 同窓会の部会に加入させていただくことになった。

KIT 同窓会の部会になってから2015年11月に京都の「がんこ寿司」二条店で総会懇親会を開催し50名の参加者が集まった。

2016年は総会懇親会の休みの年で開催は無かった。次回の総会懇親会は2017年5月28日(日)に開催すべく現在幹事会で検討しているところである。場所的には有力候補として京都の「KKR くに荘」などが上がっている。

会長は現在昭和36年卒業の原幸代さんで、幹事は原則昭和36年以降卒業の学年のクラスから1~2名ずつになってもらっている。日頃のコミュニケーションは専ら専用のメールリンクで意思疎通を図っている。また、ホームページを作成し、会員交流の場としている。その中には在学時代の機関紙「CHAIN」のバックナンバーを整理して掲載したりしている。

2016年は1月と11月に2回幹事会を開催し各クラスの代表者間の親睦を図るとともに2017年の総会懇親会の詳細内容を検討した。2017年2月にさらに幹事会を開催し総会懇親会の最終案を固めて会員の皆さんに案内を出すことにしている。

# 住環境学科部会活動報告

荒川 晃 嗣

(住環境学科 昭和53年卒)

今回で第25回目となる、毎年恒例の住環境学科ホームカミングデイが、平成28年11月20日(日)に開催されました。今回は住環境学科10期生が幹事を担当され、会場を二つに分けて趣向を凝らした会にいただきました。相川先生、西村先生、佐々木先生、長坂先生のご出席を賜り、60人以上の卒業生が集まりました。中でも相川先生には毎年ご出席いただいており、毎年いただくお言葉を大切にしています。

当日、13時より大学の60周年記念館において長坂先生に「現代環境デザインの基礎理念」と題して講演をしていただきました。そのあと15時半から会場を三条油小路にある京町家連携キャンパス「ににぎ」に移し、懇親会を行いました。ここでは、卒業生のプチ講演会として、斉藤正吉さんに「円頓寺商店街におけるまちづくり活動」の報告をしていただきました。はじめに佐々木先生の乾杯のご発声のあと会食し、各期の参加者全員が近況報告を行いました。各期の皆さんの近況報告はそれぞれの年代の想いや悩みが伝わってきて、聞いていて大変感慨深く、また楽しいものでした。会場の「ににぎ」は京町家のままの空間で、住環境学科の家に帰ってきたような感覚で、アットホームな雰囲気です。会が進行しました。

この会の対象者が1期生から15期生だけの閉じられたメンバーであることから、これから在校生との交流、連携を目指すことになっており、その手始めとして長坂研究室の学生数名にも急遽参加していただきました。学生と話していると、大きな年齢差はあるものの、建築を語る上で歳は関係ないのだと実感できました。今後、もっとこの連携の活動を広げて行きたいと思いました。会の終わりに、10期生から次回の幹事担当である11期生への引継ぎがあり、11期生代表から「早速、準備にかかります。」との心強い言葉をいただきました。

住環境学科の1期生から4期生の学科創設時の学年は、すでに還暦を過ぎた方が増えており、

勤め先を退職した方も出てきました。今まで仕事に忙しく、こういった会に参加していなかった方も、そろそろ参加していただけるのではと思っています。上の学年ほど残された時間が少ないわけですから、会えるときに会って有意義な時間を過ごしたいものです。



# 京都工芸繊維大学サッカー部 OB 会設立記念祝賀会の報告

林 田 直 利

(意匠工芸学科 昭和45年卒)

1年前の「KIT 同窓会誌」(No.10/平成28年4月発行)に「工織サッカー部 OB 会」発足の紹介をさせていただきました。67名の OB 名簿を集めて立上げましたが、全員が65歳以上という状況で、“64歳以下の年代の OB と如何に繋がりを付けていくか”が当面の課題でした。

「KIT 同窓会誌」発行後間もなく、若手 OB から連絡をいただき、早速、5月末に顔合わせを行いました。この場には現役のキャプテンも来てくれていました。40代から下の OB 達は、既に現役との定期的な OB 戦(ゲームと終了後の懇親会)を実施していることが分かりました。この顔合わせが大きなきっかけとなり、若手 OB から現役部員まで、一気に縦の繋がりが実現しました。その後、数度の定例会合を重ね、OB 名簿の作成、OB 会の運営体制案、会則案、OB 会立上げ記念祝賀会の実施計画等を順次詰めていきました。

このような経緯を経て、昨年10月8日(土)、大学内の60周年記念館に於いて「京都工芸繊維大学サッカー部 OB 会設立記念祝賀会」を開催する運びとなりました。S28年卒から新卒まで100名の OB が出席され、これに22名の現役部員が加わり、誠に盛大な祝賀会となりました。

祝賀会に先立って行われた OB 戦には60名を超える OB が参加し、現役との交流戦やミニゲームを楽しみました。心配された怪我もなく、3時間余りの OB 戦は瞬く間に過ぎました。参加された OB の中には、75歳で今なお現役でゲームにも出ているという若手 OB 顔負けの大先輩もおられました。OB 戦終了後、60周年記念館において総会と懇親会を行いました。総会では、「会則」案と役員候補者の承認をいただき、晴れて「京都工芸繊維大学サッカー部 OB 会」が正式にスタートしました。総会終了後、2階の大会場へ場所を移し、南 聰会長(S42年建築科卒)の挨拶、三原興二氏(S31年繊維化学科卒)の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。また、宴たけなわの中で、工織サッカー部を創設された山崎 隆氏(S28年繊維化学科卒)から、サッカー部創設当初の貴重なお話を紹介していただきました。数十年ぶりの同世代との再会の輪や、60余年の年齢の差を超えて、現役を交えた交流の輪が幾つもできていきました。好きなサッカーで汗を流したという共通の体験を持った者たちの世代を超えた素晴ら



平成28年10月8日 京都工芸繊維大学サッカー部OB会設立記念祝賀会 OB戦



平成28年10月8日 京都工芸繊維大学サッカー部OB会設立記念祝賀会

しい集まりの場となりました。OB 会の大きな目的の一つである“現役への支援活動”として、懇親会の場で、支援カンパを行い20万円以上の支援金が集まりました。現役キャプテンからお礼とともに現状の部活動の報告をしてくださいました。

以上のとおり、1年前には想像もしなかった盛大な「設立記念祝賀会」となりました。後日の反省会で出された多くの改善点や良かった点を次回以降の OB 会に生かしながら、しっかりと継続していかなければなりません。今回の「設立記念祝賀会」で築かれたこの素晴らしい絆をこれからも大切に継続し、世代を超えた OB の皆様との更なる懇親を深めるとともに、現役との繋がりの強化、支援をしていきたいと思っています。

京都工芸繊維大学サッカー部 OB 会  
副会長 林田直利(意匠工芸学科 S45年卒)  
(連絡先)

〒603-8484 京都市北区衣笠氷室町48-26  
E-mail : hayashida1101@zeus.eonet.ne.jp

## バスケットボール部 OB会の活動報告

OB会事務局 藤田 康弘  
(機織工芸学科 昭和39年卒)

会員総数100名を超える当OB会は、数年に一度の総会を開催しています。

最近では、昨年10月23日に、京都タワーホテルにて開催しました。

出席者は18名の予定のところ、当日の体調不良で2名が欠席しましたが、16名が遠くは関東からの参加もあり、和気あいあい昔話に花が咲きました。

OB会として、ここ数年、現役部員への資金的な援助をしています。大学から支給される額だけでは種々の経費（大会への参加費、連盟への登録費用、ボールなど備品購入等々）を賄えないからです。

平成23年にバスケットボール部が一度廃部になり、その後辛苦の末に、再び部として活動を再開し、五年振りで平成28年度に卒業生（平成29年3月卒業）が出ることになりました。当OB会としても久しぶりに若い会員が入ってくる事になります。



## 寄稿

### 繊維の研究開発に携わって

増田 豊  
(繊維化学科 昭和43年卒)

私は昭和43年に繊維学部繊維化学科を卒業して、大手合繊メーカーに入社しました。

入社後約30年間合成繊維の製造や加工関係の研究開発に携わった後、テニスのガットなどを製造販売している会社に出向しました。

出向先でも開発を中心にかかわり、昨年70歳でリタイアするまでに約48年間、大学の専攻分野で仕事をしてきたこととなります。

#### 1) 成熟産業における研究開発

入社当時合繊は成長産業から成熟産業への移行期であり、一時は「衰退産業」とみられ「脱繊維」が叫ばれました。国内的には需要は飽和しても世界的には生活密着産業として成長するとの判断から海外での生産を強化する中で多くの先輩が苦勞され、活躍されました。

研究開発分野でも要員が減少する中で、将来を見据えたキーワードとして、「環境」「先端技術取込み」「川下」「感性」などの視点からテーマ設定してきましたが、成長から成熟というプロセスは避けがたいことを痛感しました。このことは繊維以外の製品や産業でも同様と思います。

#### 2) 中小企業における技術継承

出向した企業では、研究開発が主担当でしたが、会社としては、業績悪化⇒再生ファンドの支援⇒再建活動⇒上場企業の子会社化というプロセスを経験しました。

これらの中で、技術力が企業価値として大きなウエイトを占めること、とくに中小企業においては技術継承が大きな課題であることを再認識しました。

製造業として永続するためには、製造力、技術力の継承が必須であるが、属人的でなく仕組みとして人材育成していくことも技術者の重要な役割と思います。

# 中澤良夫初代学長と硬式野球部に想いを馳せて

糸井久明

(意匠工芸学科 昭和38年卒)

KIT 同窓会誌 (平成28年No.10) を拝読し思わずキーボードをたたき始めました。

「京都高等工芸学校初代校長中澤岩太博士とグリフィス」(P. 31) と「平成27年度硬式野球部 OB・OG 会活動報告」(P. 18) の記事を読み、小生の昔日への想いが蘇ってきたのです。

自分は学生時代、デザインの勉強はそこそこにして暗くなるまで野球にうつつを抜かしていました。一学年上の硬式野球部 OB・OG 会山中寛城会長とは一緒にボールを追っかけた仲でもあります。

確か昭和36年だったと記憶していますが、当時全国高校野球連盟の会長を務めておられた中澤良夫先生が来学されて野球部のメンバーにお話しをして戴く機会がありました。集会所の和室でみんな車座になって熱心に耳を傾けました。

お土産に全国高校野球大会で使用された硬式野球ボールを数個持参されました。「第〇〇回全国高校野球選手権大会」の印字も鮮やかに甲子園の匂いがするまだまだ新しい白球でした。当時の我が野球部で使用するボールと来たらグラウンドの隣の田んぼに何度も浸かって黒っぽくなった重いボールばかりでしたから、その艶やかな真っ白いボールの綺麗さは今でも印象深く残っています。

グレイのスーツに身を包まれた小柄な先生は笑みを絶やすことなく懐かしそうに静かに話を続けられました。

その時の先生の話で今でも鮮明に記憶に残っているのが甲子園球場を設計した時の逸話です。「当初からあんなにバカでかい球場を作る予定ではなかったんです。ただ単に設計を間違えただけなんです。途中で気は付いたんですが、結局そのままに完成されてしまいました」と内幕

を暴露されました。そういえば甲子園球場は過去にラッキーゾーンが設けられた時代があったほどとてつもなく広い球場として有名です。

中澤先生が学生野球に縁ある先生で全国高校野球連盟会長をなさっていることは存じていましたが、目の前にその先生がいらっしやることに大変感激したものです。

当時の本学硬式野球部は学大 (現 京都教育大) に次ぐ強豪として一部リーグで学大と優勝決定戦まで進んだこともあります。4回生だった山中会長は一発長打のスラッガーでクリーンアップを打っていました。

後年になって小生の結婚披露宴で主賓の山田新一先生 (元 意匠工芸学科教授・日展審査員) から「優勝したことはないがあわや優勝ということがありました」と祝辞の中で披露して戴いたことも昨日のこのようです。

まさに光陰矢の如し、当時のエース西川さんや4番バッター佐々木さん、また同輩の志村さん、マネージャーの薦田さんなどがすでに鬼籍に入られたと聞き及んでいます、寂しいばかりです。

今後、本学硬式野球部が捲土重来、昔の勢いを取り戻して一部リーグで優勝争いを演じられるよう後輩諸君の奮闘をお祈りする次第です。



昭和37年工織大グラウンドにて  
前列右から3人目が筆者

# 絵を描くことそして学舎

榎原 保

(製糸紡績学科 昭和41年卒)

私は絵を描くことが好きで、それは絵に興味を持ち始めた子供の頃より、学生時代、そして社会人になってからも絵はいつも私の傍らにあり私自身の表現の一部でした。本格的な絵画制作を始めたのは社会人になってからであった。コンテストなどに出品し、入選したり落選したり、その都度飲んでみたり、沈んでみたりしたものです。しかし入選するとか授賞するとかは重要なことではなく、それは単なる結果であって重要なことは制作過程がどのようであったか、ということです。作品に託した作家の想い、感性、創意がどれだけ描き込めたかということです。制作コンセプト、モチーフ、構図、配色、マチエールなどなど、試行錯誤を繰り返し、悩み、迷い、苦しんで描き上げた作品は必ず観る人の心に強い感動と心温まる豊かさを享受させてくれるはずです。

私はそう信じたい。

秀逸な作品には“モノを買うこと”や“カネもうけ”といった持つことのみでこだわる豊かさではなく、作家の創造力と感性が観る者の心に深く、爽やかな感動を与える、そんな豊かさがあります。そのような作品を創造できる作家こそ優れた、稀有な作家と思います。そしてその作品には凜とした品位と品格が当然の如く具備されているのです。

食わずには生きられないように、寝なければ苦しくなるように、しなければならぬとすれば今の自分には絵ではないかと思えます。絵を描くことは、描かずに過ごす時間より充実しているからです。

絵を描くことが好きな者にとっては、それが職業であるなしにかかわらず人生の良き伴侶の一つであることは確かなようです。

私は今そのように思っている。

大学卒業後約50年にもなる企業での生活。いつの間にか歳を重ねてしまった。そんな想いです。歳を重ねるにしたがって壊れてしまったもの、なくなってしまったものへの郷愁を強く感じるようになってきた。その想いをこめ学生時代に通った今はなき白梅町繊維学部学舎をモチーフに作品を描き続けてきた。今回その作品の一部を同窓会パビリオン、美術工芸資料館に寄贈させて頂きました。母校のメモリアルになれば幸いです。寄贈にあたりましては同窓会会長山崎達夫様、元同窓会会長三好明様、同窓会専務理事志賀均様、理事井上良一様、副学長森本一成教授、美術工芸資料館館長並木誠士教授にはご多忙の中ご検討、ご配慮頂きましたことを心より感謝いたします。ありがとうございました。

## 寄贈作品

同窓会パビリオン 絵画“学舎1”

サイズ：194cm×162cm 油彩

美術工芸資料館 絵画“忘れてきた学舎”

サイズ：194cm×162cm 油彩

絵画“学舎2”

サイズ：194cm×162cm 油彩

## 概 歴

新世紀美術協会展、大阪国際アートフェスティバル、全関西展、北摂洋画展

川西市美術協会展、パレット会展、他グループ展

画廊ぶらんしゅ個展3回（2018年4回目予定）

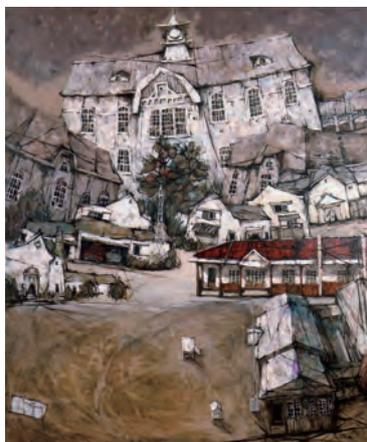
新世紀展 佳作賞、吉村芳松賞、刑部人賞

新世紀関西展 読売賞 授賞

新世紀美術協会会員、川西市美術協会副会長



学舎1  
194cm×162cm 榎原 保



忘れてきた学舎  
194cm×162cm 榎原 保



学舎2  
194cm×162cm 榎原 保

## 水彩画との出会いと ラヴァージュ画

藤田 康弘  
(機織工芸学科 昭和39年卒)

長いサラリーマン生活を終えた頃のある日、京都市内のギャラリー街を目的も無く歩いていると、一人の水彩画家が描いたヨーロッパの美しい風景画が、ガラス越しに私の目に飛び込んできた。この瞬間、こんな絵を描きたいという衝動に襲われ、この作家の画塾に通う事になった。2001年、これが水彩画との出会いだ。

爾来、試行錯誤を重ね、2006年に自分なりの画法を見出した。アクリル、透明・不透明水彩絵具の特性を使い分け、独特の味わいを付加する事ができた。

ガッシュの下塗り、アクリル絵の具塗付の後、水彩画としては、大胆な水洗をするのでラヴァージュ(仏語で水洗の意)画と名付け一昨年、特許庁から登録商標が認められた。溜め、滲み、ぼかし、たらし込みは大切に仕上げている。欧州の風景を描くには、必ず現場を訪ね、スケッチし、撮った写真を参考に作品に仕上げる。

取材計画から絵画制作までの一連のプロセスは、全て自分の手作業であり、ここに至福を見出している。

ラヴァージュ画の詳細は、HPで紹介している。「藤田康弘」で検索して下さい。

〈追記〉

現在、公募団体「三軌会」会員。  
2017年5月17日(水)~29日(月)、第69回三軌展を国立新美術館(六本木)にて開催します。

私は5月19日~21日の3日間会場に居ります。



薨の波Ⅱ・シエーナ200号  
2016年8月京都市美術館にて

## KIT 同窓会 理事就任の挨拶

高木 恒男  
(色染工芸学科 昭和47年卒)

平成28年6月のKIT 同窓会総会にて理事を仰せつかりました。これについての経緯はもう一つの学科同窓会であります色染物質会の会長を仰せつかり、その役職と並行するべしとして推挙されたのかと存じます。

ただ私は大学時代、わずかに化学を学習したものの卒業後はすぐに植物の販売・庭のメンテナンス・造園の仕事を始めました。当初、植物について然程知識もない私でしたがあつという間に40数年が経ちました。この職歴の者がどうしてKIT 同窓会の理事として又、色染物質会の会長職を仰せつかったのか。いまだに謎です。併せて、今まだ現役にて仕事をしており、忙しい日々を送っております。しかし、お引き受けさせて頂いたからにはできうる限りお役に立たせて頂きたいと思っております。

さて、色染物質会はある意味、KIT 同窓会の一部会であると考えられます。そこで色染物質会の会長に就任して8ヶ月、考えさせられましたのは学科同窓会及び同窓会支部の活性化がKIT 同窓会の活性化としておおいに貢献するものと思います。そのためにも学科同窓会・同窓会支部に対しての提案と同時に支援金の充実をはかって頂けるようお願いをして参りたいと存じます。この事がKIT 同窓会・各学科同窓会・同窓会支部の会員増強・会費納入率の向上につながると信じております。今後、KIT 同窓会が京都工芸繊維大学又、学術そして社会に貢献出来るかを考え、卒業生・関係者と共にKIT 同窓会の理事として微力ながら職分を務めさせて頂きます。どうか皆様のご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

## 瞬く間の四十数年

熊本県支部 支部長 岡 博 司  
(生産機械工学科 昭和49年卒)

昭和45年春、昨春の大震災で全国の方々に認知戴いた熊本から松ヶ崎へ当時本学舎でも学生運動による教育棟バリケード封鎖があり受講出来る状況ではなかった。大將軍にあつた洛西寮の二人部屋に寄宿し、寮なのに何故こんなに学舎が遠い? と市電通学を始め、2回生から中古バイクで快適? な通学となった。学業そつちのけで、関西・京都・近国大各リーグ等参加したバドミントン部(今でも夏のOB会は楽しみにしています)。4回生時は松ヶ崎に下宿し、大日本印刷や、祇園でのバイトで4年間を過ごした。

卒業式当日早朝、下宿にて内定先から事前健診結果による内定見送りの電話を受けたシーンは40数年経た今でも鮮明に浮かぶ、卒業式の記憶は全く無い。

それから故郷にて療養、2年間無為に過ごし故郷の会社へ、機械設計希望したが営業へ配属され広島・東京・名古屋と17年間の出先業務、1980年の初海外出張が何とバグダッド。機械の操業指導1カ月の予定であつたがパスポートを留保され、結局倍の2カ月滞在、当時はまだフセイン時代で何と帰国後イ・イ戦争が勃発した。その後、欧州・米国・東南アジアへ。

そして'93年中国へ初出張、北京郊外の市、当時彼の地にはホテルというものが無く、官営の小さな招待所に寝泊まりし、毎晩、国営企業の客先と中国バイチュウで乾杯! という思い出深い日々を過ごした。

もちろん彼の地は現在あつと驚く大都市。

そんな流れで海外での営業・代理店提携・技術指導・市場リサーチの為、インド・トルコ・メキシコ等へ。海外での駐在経験こそ無いが、インドへは40回強、お隣の中国へは120回超の出張で、中国の驚異的な3段跳び発展を目の当たりにして来ました。未だ現役で後任の育成を念頭に、増刷したパスポートスタンプが満杯になるまで、ガタの来た体にもう少し鞭打つ所存です。最後に、同窓会各位の健康と無事息災を祈念します。

## たつ鳥跡を濁す

千 葉 薫  
(建築学科 平成2年卒)

ついでの間松ヶ崎のキャンパスを後にしたように感じます。卒業就職に関して担当教授には大変なご迷惑をおかけしたことを今でもよく思い出します。一年の頃、ある先生が、「うちの建築学科では製図さえできれば大きな顔ができますよ。」と仰つたのを言葉そのまま受け取り製図だけ頑張りました。おかげさまで製図の成績は優を頂いておりましたが、他は卒業に足る程度のものでした。就職を決める段になり就職担当教授に呼び出され、「〇〇社へ推薦状書くから面接に行ってください」とのこと。〇〇社が不足な訳はありませんが、親の伝手などを頼り、××社から学校の推薦もらえれば内定しますよなんて話を聞いていたものですから、「先生、××社には推薦書いて頂けませんか」などと怖いもの知らずで尋ねたところ、「君はバカか、君の成績で推薦書けるか」と一蹴されました。私としては、一年の時の「製図さえ…」が頭にあつたので、その旨を伝えると、「君、それは学内での話や」と、その一言に妙に納得しましたが、後の祭りです。そんな私を〇〇社は採用下さり、お世話になることになりました。そこでは、学科の先輩も多く在籍され、かわいがって頂きました。しかしながら、一年という短時間で実家の都合とはいえ、退職させて頂くことになりました。退職に際し、就職担当の先生や先輩方、そして学校にも多大なご迷惑をおかけするという事に気づいていませんでした。自分の都合しか考えず、退職という選択をしてしまったこと、今でも恥ずかしく思うことがあります。誌面をお借りしてお詫び申し上げます。今、零細設計事務所の代表をしておりますが、今でも、あの頃を振り返り、先生が示して下さいた進路は私という人間を見て示して下さいたものであり、それは間違っていなかったと思います。故藤本康雄先生に心より感謝申し上げます。

## トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムで 京都工芸繊維大学生の海外留学を促進

国際センター長 森 本 一 成

トビタテ！留学 JAPAN は、『意欲と能力ある全ての日本の若者が海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成するには社会総掛かりで取り組むことにより大きな効果が得られる』との考えのもと、政府だけでなく、各分野で活躍されている方々や民間企業から支援や寄附などにより、官民協働で「グローバル人材育成コミュニティ」を形成し、将来世界で活躍できるグローバル人材を育成するものです。本学でも第1期生募集時から広く学生に応募を呼びかけ、多くの学生が本制度で海外留学をしています。

本学トビタテ！留学 JAPAN 累計合格者は、1,000人当たり6.72人。国立大学の中で全国3位となっています（2017年1月現在）。

文部科学省で開催されるトビタテ！留学 JAPAN 合格学生の壮行会や本学での帰国学生の報告会に参加していつも感じるがあります。それは彼らの自信に満ちた言動と行動で

す。壮行会では全国から合格した学生や関係者全員が一堂に会して情報交換をしますが、テーブルを回れば全く知らない学生が話しかけてきますし、自分のやりたいことを熱く語ります。また、帰国後の報告会で聞く留学の内容は通常の留学体験談とは全く異なります。自分で企画立案し、自分で切り開いたことに対する達成感と困難を克服した体験から惨み出る充実感に溢れたもので、言葉の端々に強さのあることが特徴的です。この特徴的なプログラムに、本学からは5期生までで合計27名の学生が採択されました。このことは本学のグローバル化推進の大きな原動力にもなっています。

本学では、説明会や本学海外留学プログラムガイド「FLY HIGH」、本学学生のトビタテ！留学 JAPAN 報告「トビタテ！KIT」などで学生に本制度を紹介し、海外留学を促進しています。ここにその一部を紹介します。

本学の合格学生実績 ※( )は書面審査通過者

採用者数	1期生 3人(5人)	2期生 2人(9人)	3期生 5人(8人)	4期生 7人(10人)	5期生 10人(18人)
------	------------	------------	------------	-------------	--------------

### トビタテ！留学 JAPAN で留学した本学学生の体験記・後輩へのメッセージ

(「トビタテ！KIT」「FLY HIGH」からの抜粋・一部編集あり)／(所属と学年は留学開始時のもの)

#### 1期生 加藤福子 建築学専攻 M1

ヴェルサイユ国立建築大学（フランス）へ留学  
トビタテ！留学 JAPAN での留学では、奨学金で毎月多く支援をしていただけるだけでなく、事前の手厚い研修や留学先でもトビタテ！コミュニティを通じて多くの人と出会うことができ、そこにとても魅力を感じています。

#### 2期生 榎崎洋子 デザイン学専攻 M2

アールト大学理学部（フィンランド）へ留学  
多分野多国籍チームによるデザインプロセスを学ぶため、トビタテ！留学 JAPAN の奨学金を得て、IDBM プログラムに留学を決意しました。



加藤さん



榎崎さん

#### 2期生 杉江敏幸 電子システム工学専攻 M1

スイス連邦工科大学ローザンヌ校（スイス）へ留学  
積極的になって行動すれば自ずと仲間が増えて自信が持てるようになって感じています。

#### 3期生 高橋京子 物質合成化学専攻 M1

ワシントン大学（アメリカ）へ留学  
留学中に大切にした言葉は「恥をかけ」と「自分の枠で判断するな」でした。

#### 5期生 丸田莉奈 応用生物学専攻 M1

Cell Guidance Systems Ltd.（イギリス）へ留学  
ネイティブの英語のシャワーを毎日浴びて自分の英語力を伸ばし中です。やはり、英語力を伸ばすには現地に来ることが一番いいと思いました。



杉江さん



高橋さん



丸田さん

## タイ国際設計ワークショップ

ボク ジャク ショ  
ト 若 書

(建築学専攻 博士前期課程 1回生)

昨年の9月に、私たち建築学専攻の修士1年の8名は、タイのキングモンクート工科大学の学生とともに、バンコクにて2週間に渡る国際設計ワークショップを行いました。

設計敷地はバンコクのTALAT PHLUです。TALAT PHLUは中心市街地と少し離れていますが、運河の隣にあり、伝統のフリーマーケットを持ち、タイの生活感が溢れる地域です。敷地調査をした段階のやり方は日本と異なり、現地の住民との交流を十分にしました。同じグループのタイ学生の手伝いで、現地の方々と交流ができると同時に、初めて会ったタイ学生との交流もできました。それはその後のチームワークに重要な意味があると考えています。

また、チームワーク期間中のコンセプトを決める段階は、異なる文化、背景、価値観を持つ我々にとっては難しいでした。その場合、自分自身を客観的な立場に置いていて、相手の話をよく聞いた上で、発言することの大切さを勉強しました。そのように、お互い理解した上で、結果的に、良い作品ができました。そのアイデアがぶつかる段階は、良い作品と最も近いところだと考えています。最終プレゼンテーションでは、キングモンクート工科大学の先生方と本学の先生方にも講評をしていただき、異なる角度からの建築の見方に触れることができました。

異なる文化の中にいると、色々な考えが変わり、自分自身の視野も広くなり、非常に貴重な経験だと思っています。ご支援を頂いた京都工芸繊維大学同窓会様に心よりお礼申し上げます。



## 共同ワークショップで 得たもの

勝 孝

(建築学専攻 博士前期課程 1回生)

2016年8月～9月の2週間、建築学専攻の修士1回生7名と共にタイ・チェンマイ大学建築学科の学生との合同ワークショップに参加致しました。

これは、チェンマイの気候や歴史、建築様式を学び、その上で、それら知識を活かして設計課題「チェンマイ大学内の静かな貯水池の畔にラーニングセンターを作る」に取り組むというものでした。

私達は、現地・チェンマイ大学の学生2名と京都工芸繊維大学の学生2名で構成されるグループを編成し、敷地見学を経て、グループ内で議論を重ね、設計活動を進めて行きました。現地文化の体験、チェンマイ大学の学生との交流等を通じ、大変大きな刺激を受けることになりました。

最終日には、私達の成果を英語でプレゼンテーションし、チェンマイ大学と京都工芸繊維大学の教授の方々と議論をする機会を得ました。普段、接することのない先生方にも講評して頂き、自分自身の長所を伸ばせるようなアドバイスを頂戴することが出来ました。

お陰様で、今回のワークショップでは、タイの宗教観や文化に直接触れ、独特な建築様式を学ぶ等、貴重な体験を積むことが出来ました。また、グローバルな視点、新たな考え方を身に付けるきっかけともなりました。

ご支援下さいました同窓会の皆様にも、心より御礼申し上げます。



## 2016 Ecole National Supérieure d'Architecture de Versaille Workshop

グン チュン ヒュウ  
Nguyen Trung Hieu

(建築学専攻 博士前期課程 2回生)

Last year, in 2016, under the supervision of Professor Kimura Hiroaki, and with the support of the National School of Architecture of Versailles (ENSA-V), fourteen master's degree students from the KIT Department of Architecture participated in an international architectural workshop which took place in Paris. The workshop gave us a chance to talk to each other and examine the Design Project at 'La Petite Ceinture'(The Little Belt), an abandoned railway that loops around Paris. It once played an important route transporting people and freight to different stations. With intensive contributions from both universities' professors, we had constructive discussions on its special architecture.

After finishing the international workshop, we traveled to Switzerland, Austria and Germany as a way of improving own understanding of architecture. At each place I went to, and each country I visited, I got various experiences of famous architects from all over the world.

Through the two-week working trip at ENSA-V, I have obtained general perspectives about urban landscapes in the Hub of Paris. Most importantly, I have gained varied experience of Architectural Design in Paris, and in Europe generally. Finally, I wish to express my appreciation to the Alumni Association of K. I. T. Through this experience, I have gained indispensable viewpoints for future studies.



## ベトナムでのグローバル インターンシップで学んだこと

黒坂 香織

(材料創製化学専攻 博士前期課程 1回生)

私たち、応用生物学専攻3名、材料創製化学専攻2名、機能物質化学専攻8名、情報工学専攻5名、機械物理学専攻2名の計20名は、9月13日～28日までの15日間、ベトナムの大学へ教育体験のグローバルインターンシップに参加しました。主な内容として、ベトナムの学生と実験を行いました。日本で事前に予習はしていましたが、実際英語で実験手順を説明してみると中々通じずとても大変でした。デモンストレーションを試してみたり、昼食時に談話を通して仲を深めることで、徐々にコミュニケーションをとれるようになり実験も円滑に進められました。また、日系企業に訪問させていただき、工場の見学をしたり、社員の方から仕事のやりがいや苦労していること等を聞くことができました。自分の将来について考えるととても良い機会になりました。

今回のグローバルインターンシップを通じて、たくさんのベトナムの友人ができ、ベトナムの歴史や文化について学ぶことができました。また、今まで関わりのなかった他専攻の人たちとも交流ができ、たくさんの経験をする事ができた非常に思い出のつまった15日間になりました。

末筆になりますが、ご支援下さいました京都工芸繊維大学同窓会の皆様には貴重な経験をさせて頂けたことに心からお礼申し上げます。



## 美術工芸資料館の活動

並木 誠士  
(美術工芸資料館長)

2016年度の美術工芸資料館の活動をご報告いたします。

2015年度からの継続で「村野藤吾の建築—模型が語る豊饒な世界」と館蔵品企画「複製技術としてのポスター」が今年度最初の展覧会でした。「村野」展は、これまでの展覧会のために制作した模型を集合させた展示で、会場は、村野がつくった「まち」ができあがったような素敵な空間になりました。

続いては、京都高等工芸学校二代目校長であった鶴巻鶴一先生が復活させた墨流し染が現代のファッション産業にまでつながっていることを示す「京都の墨流し染・糊流し染—その系譜と新たな可能性—」展、京都高等工芸学校と現京都市立芸術大学での図案教育を比較した「学業から職業へ—京都高等工芸学校と京都市立美術工芸学校の図案教育Ⅲ」といった、本学の歴史を振り返る展覧会をおこないました。京都市立芸術大学との共催企画は2016年度が3年目にあたり、3年間の成果をまとめた『図案からデザインへ—近代京都の図案教育』を展覧会に合わせて淡交社から刊行しました。

美術工芸資料館の収蔵ポスターのなかでもユニークな位置を占めるチェコのポスターを中心とした「チェコのグラフィックデザイン—ポスターとマッチラベルを中心に—」では、チェコのデザイン研究で学位論文を出した本館学芸員が所蔵するマッチラベルも展示してもらい、なかなか見ることのできないチェコ・デザ



「チェコのグラフィックデザイン—ポスターとマッチラベルを中心に—」展展示風景

インの魅力堪能してもらうことができました。

秋には、恒例のSDレビュー「第35回建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展」と「松ノ井覚治の建築ドローイング—ニューヨークで学んだボザール建築」という建築関係の展覧会を二本開催しました。松ノ井覚治のドローイングはご遺族からご寄贈いただいた資料の初公開でしたが、本学教員の研究成果の発表でもあり、さきの図案教育やチェコ・デザインの展覧会と同様に、研究と展示を一体化する大学ミュージアムならではの企画になりま



「松ノ井覚治の建築ドローイング—ニューヨークで学んだボザール建築」展におけるギャラリートーク

した。続いて開催した「おいしい広告—欧米と日本の飲食物のポスターを中心に—」「くすりと化粧のアラカルト」や2017年の1月から開催した「守住勇魚と京都高等工芸学校展」もやはり、美術工芸資料館スタッフの研究成果の発表の場となっています。

2016年11月には、個人所蔵家から借用したポスターによる「展覧会ポスターに見るマン・レイ展「Reflected」」を開催しました。世界各地で開催されたマン・レイについての展覧会ポスターを集めた企画で、お国柄や時期の違いによる相違を楽しむことのできる展示になりました。これと並行して、本学で開催された画像関連学会連合会第3回秋季大会の関連企画として「時を超えた伝統の技—文化を未来に手渡すコロタイプによる文化財の複製—」を、株式会社便利堂様のご協力により開催することができました。複製技術の進歩や文化財保存の意義を確認することができました。

文化庁助成事業としては、2016年度も新人アーティスト育成事業として「未来の途中の星座—美術・工芸・デザインの新鋭9人展」を開催したほか、アートマネージャー養成講座2015年度生の StepⅢとして、京都太秦にあります公益財団法人DNP文化振興財団京都 ddd ギャラリーを会場に、京都 ddd ギャラリー・京都工芸繊維大学アートマネージャー養成講座連携企画展「なにで行く どこへ行く 旅っていいね」を開催しました。

講義での展覧会の活用や展覧会ごとに開催する教職員向けギャラリートークも、徐々に定着してきたようです。これからもできるだけ多くの方々に美術工芸資料館の活動を知っていただ

きたいと思っています。

今後は、3月6日から1階にて「里見宗次：パリ・日本・タイの軌跡」、3月21日から2階で「第14回村野藤吾建築設計図展 村野藤吾とクライアント—近鉄の仕事を通して—」を開催いたします。みなさまのご来館を心からお待ちしています。

また、文部科学省 COC+事業に採択されている「北京都を中心とする国公私・高専連携による京都創生人材育成事業」の一環として、福知山市佐藤太清記念美術館において福知山市・京都工芸繊維大学包括協定締結記念「京都工芸繊維大学美術工芸資料館 名品展 アール・ヌーヴォーと浅井忠のデザイン教育」を3月4日から4月23日まで開催します。さらに、泉屋博古館（京都市左京区）では、5月20日から7月9日まで、泉屋博古館分館（東京都六本木）で9月9日から10月13日まで「特別展 浅井忠の京都遺産—京都工芸繊維大学の美術工芸コレクション—」を開催します。美術工芸資料館の収蔵資料がまとまったかたちで学外に出るはじめての試みです。それぞれの地域にお住まいの卒業生各位はもちろん、多くの方々に足を運んでいただき、京都工芸繊維大学コレクションの素晴らしさを実感していただければと思っています。

なお、最後になりますが、1980年の美術工芸資料館設置以来、館の運営や資料の収集に尽力をされた竹内次男先生が2016年9月にお亡くなりになりました。美術工芸資料館の強固な骨組みを作り上げてくださった竹内先生は、ご退官後も折に触れて資料館に顔を見せてくださいました。あらためて、先生のご冥福をお祈りしたいと思います。

## 精密配向固定法を用いるバイオ医薬品分離・ 精製プロセスの超高性能化

熊田 陽一  
(分子化学系 准教授)

**【緒言】** 現在、癌や関節リウマチなどの重篤な疫病に有効な治療薬として抗体医薬が注目されている。抗体医薬は、癌細胞などの標的抗原に特異的に結合し、体内の免疫系を活性化することで標的細胞のみに、高い治療効果が期待できる。しかし、従来の低分子医薬品と比較すると抗体医薬の製造コストは高く、更なるプロセスの改良が期待されている。抗体医薬の製造プロセスの内、近年、培養効率は飛躍的に向上しているが、精製効率はあまり向上しておらず、高コストの一因となっている。精製プロセスの効率を上げることができれば、抗体医薬の低コスト化につながる。抗体医薬の分離プロセスにおいて最もコストが高い作業は、ProteinA 固定化担体を用いたアフィニティクロマトグラフィーである。したがって、アフィニティカラムの高性能化や低コスト化は、抗体医薬の製造コストを低下させるための重要な課題である。そこで、本研究では、材料親和性ペプチドタグを利用した改変 ProteinA を開発し、アクリレート系クロマト担体上に高密度に固定化できれば、抗体の結合容量が向上し、結果として精製プロセスのコストを削減できると考えた。

**【実験】** アルカリ耐性 ProteinA をモデルとし、C 末端に PMMA-tag を融合させた ProteinA-PM、N 末端に PMMA-tag を融合させた PM-ProteinA の発現ベクターを構築した。組換え大腸菌を 2L 容 Jar-fermenter で 24 時間培養を行い、タグ付き ProteinA を生産した。ProteinA の固定化状態における IgG との吸着関係を以下 2 種類の方法で評価した。(1) 粒子 1 $\mu$ m のエポキシ活性化多孔質アクリレート系粒子担体上に固定化し、ウサギ IgG と混合して結合させた後、ProteinA の固定化量、ウサギ IgG の結合量、ProteinA 利用率を算出した。(2) SPR センサを用いて、平板プラスチック表面上における、各 ProteinA の固定化状態とウサギ IgG との吸着平衡関係を評価した。PMMA-tag が吸着可能な PMMA および、親水化 PS をスピンコートしたセンサチップ上に ProteinA を固定化し、ウサギ IgG 飽和吸着状態となるまで添加した。得られたセンサーグラムから各 ProteinA の固定化量および IgG 結合量を算出した。

**【結果と考察】** Table1 に示すとおり、0.75M Na<sub>2</sub>SO<sub>4</sub> を含むバッファー中で ProteinA を固定化した場合、PMMA-tag の有無にかかわらず ProteinA は担体表面に 15~20mg/cm<sup>3</sup>-resin の密度で固定化された。一方、Na<sub>2</sub>SO<sub>4</sub> を含まないバッファー中で ProteinA を固定化した場合、タグなし ProteinA ならびに PM-ProteinA はほとんど担体表面には固定化されなかった。以上の結果より、PMMA-tag は、

ProteinA の C 末端部に融合した場合、優位にクロマト担体への吸着性を示すことが明らかとなった。一方で、固定化された ProteinA の IgG 結合量を比較した場合、タグなし ProteinA は 55.6mg/cm<sup>3</sup>-resin と高い IgG 結合量を示したのに対し、ProteinA-PM 固定化担体の IgG 固定化量は 19.9mg/cm<sup>3</sup>-resin と低く、PMMA-tag を導入することで、ProteinA の IgG 結合能がむしろ低下していることが示唆された。ProteinA-PM の IgG 結合能を再確認するために、PMMA および親水化 PS (phi-PS) 平板上に ProteinA-PM を固定化し、SPR センサを用いてこれらプラスチック表面への固定化量ならびに固定化状態における IgG 結合量を比較した。Fig. 1 に示すとおり、ProteinA-PM は、両プラスチック表面に高密度に固定化される反面、PMMA 上に固定化された ProteinA-PM は、IgG に全く結合せず、親和力を喪失していることが明らかとなった。一方で、phi-PS 表面における ProteinA-PM の IgG 結合量は極めて高く、ProteinA 利用率も 35% 以上に達した。以上のことから、ProteinA はアクリレート系クロマト担体に PMMA-tag を介して固定化可能であるが、固定化後、担体との相互作用や立体障害によって IgG への結合能が低下することが示唆された。一方で、担体の表面状態を phi-PS のような高親水性の状態に改善できれば、高い IgG 結合量と ProteinA 利用率を両立できると考えられる。

Table1 Densities and IgG binding activities of ProteinA immobilized on the resin

Sample	Na <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> (M)	固定化量 (mg/cm <sup>3</sup> -resin)	IgG 結合密度 (mg/cm <sup>3</sup> -resin)	ProteinA 利用率 (%)
ProteinA	0.75M	18.42	55.6	6.0
	0M	1.43	20	28.0
PM-ProteinA	0.75M	15.50	44.7	6.1
	0M	0.42	0	N.D.
ProteinA-PM	0.75M	20.82	10.9	2.1
	0M	10.79	19.9	2.0

N.D.: Not detected

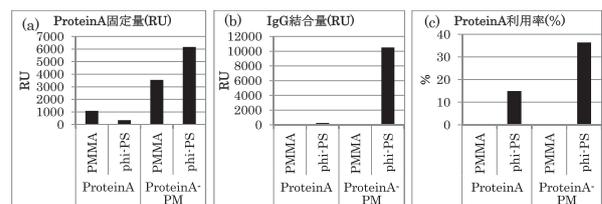


Fig. 1 Densities and IgG binding activities of ProteinA immobilized on the surfaces of PMMA and hydrophilic PS

## 第14回全日本学生フォーミュラ大会優勝報告

プロジェクトリーダー 中田 侑 甫  
(機械システム工学課程 3回生)

平成28年9月6日(火)~10日(土)、静岡県の小笠山総合運動公園 (ECOPA) において、「第14回全日本学生フォーミュラ大会」が開催され、本学学生フォーミュラ参戦プロジェクトチーム“Grandelfino (グランデルフィーノ)”が4年ぶり2度目の総合優勝、2年連続の日本一を果たしました。

本大会は、学生の自主的なものづくりの総合能力を養成し、将来の自動車産業を担う人材を育てるための公益活動として、2003年にスタートしました。競技は、静的審査(コスト、プレゼンテーション、デザイン)・動的審査(走行競技、燃費等)で構成され、学生が自ら構想・設計・製作した車両により、ものづくりの総合力が競われます。

最終日を残して暫定3位につけていた本学でしたが、最終種目のエンデュランス(耐久走行)において見事高得点を獲得し、総合優勝となりました。

私たち学生フォーミュラ参戦プロジェクト“Grandelfino”は、毎年9月に開催される「全日本学生フォーミュラ大会」で良い成績を収めることを目標として活動しています。

大会では、一年をかけて私たち学生が設計・製作したフォーミュラカーの走行性能だけでなく、製作コストや設計思想までもが評価対象となります。授業の合間を縫って一台の車を設計・製作し、更には、さまざまな審査のための書類を作成するのは、決して楽で楽しいことばかりではありません。しかし、車両や書類が出来上がった時や、全国という大舞台で成績を残せた時には、何物にも代えがたい充実感があります。

私たち“Grandelfino”は2007年度以来、10年間連続で大会に出場し続けています。国内外

から70~100校程度のエントリーがある中、ここ数年では2012年度の総合優勝を皮切りに5位、5位、2位と好成績を収め続けています。そして、2016年度は再び総合優勝を手にすることができました。現在、2017年度の目標として二連覇を掲げ、2016年度より搭載したウイングのブラッシュアップを図るなど、精力的に活動しています。

大学の学生組織である以上、引き継ぎなどの点で安定した成績を残すのは難しいということが、過去の成績を振り返るとよくわかります。そのような中で、私たちのチームではOBの方々が親身に相談に乗ってくださることがこの上ない強みとなっています。今後の更なる発展のためにも、変わらぬご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



表彰を受けるチームリーダー



表彰台で記念撮影

# ROBOCON 挑戦プロジェクト

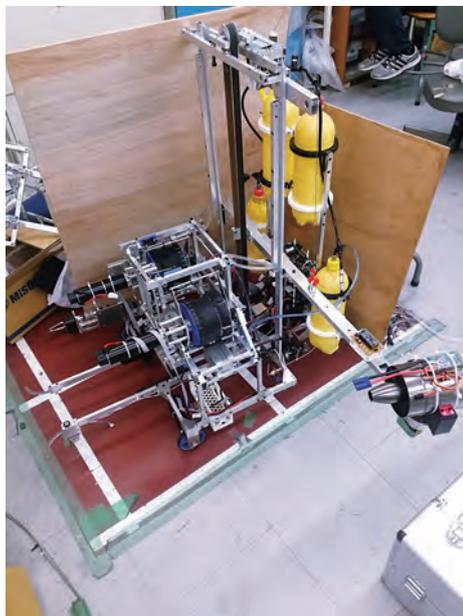
プロジェクトリーダー 坂下 高俊  
(機械システム工学課程 3回生)

当プロジェクトは「学生と教員の共同プロジェクト」として2007年に発足して今年で10年目となるプロジェクトです。NHK 学生ロボコン全国大会優勝を主な目的とし、他にもキャチロボバトルコンテストなど各種大会に向け日々ロボットを製作、出場をしています。また、科学イベントにブース出展を行ったり、小学校にて大学主催のロボット教室のお手伝いなど大学の広報活動も行っています。現在の部員は50名程で、機械、情報工学課程だけでなくデザイン建築や応用化学課程など幅広い分野からメンバーが集まり日々活動を行っております。

大会実績としましては、2013年から4大会連続でNHK 学生ロボコン全国大会に出場しており、いずれの年でもシード出場やデザイン賞を獲得しています。今年の2016では前年度優勝校の早稲田大学を破りベスト8の成績を取めました。

プロジェクトでは年に一度OB・OG会を開催することで、現役生とOB・OG様との交流の場を設けております。この会では現役生が活動報告と製作ロボットの説明などを行い先輩方からは書類だけでは伝わらない当時の苦勞、考えや社会の最先端で働くOB・OG様方の視点から見たプロジェクトの改善点を鋭く指摘して頂くなど非常に有意義な会となっています。

歴代の先輩が培い、そして今へと受け継がれた技術と精神を基に今年も大会優勝を目指してロボット製作を進めてゆきますので今後ご指導、応援の程何卒よろしくお願い致します。サイトやSNSでも近況報告を行っておりますのでご覧いただければ幸いです。



サイト URL : <http://www.fortefibre.net>  
Twitter : @kitrobocon  
連絡 : kitrobocon@gmail.com



## 平成28年度 博士学位取得者と学位論文題名

### ○課程修了によるもの（課程博士）

（平成28年9月26日授与）

専攻	申請者	論文題目（ ）は和訳
生命物質科学 専攻	NGUYEN THI MY TRINH (ぐえん ち み じえん)	Study on yeast response to vanillin, a fermentation inhibitor derived from lignocellulosic biomass (リグノセルロース系バイオマス由来発酵阻害物質バニリンに対する酵母のストレス応答の解析)
生命物質科学 専攻	NGUYEN VAN TAM (ぐえん ばん たむ)	PHOTOREFRACTIVITY OF PERYLENE BISIMIDE-SENSITIZED POLY (4-(DIPHENYLAMINO) BENZYL ACRYLATE) (ペリレンビスイミドで増感されたポリ(4-(ジフェニルアミノ)ベンジルアクリレート)のフォトトリフラクティブ性)
生命物質科学 専攻	TRAN THANH MEN (とらん たん めん)	Drosophila as a genetic model for studying lipid storage droplet-associated genes (脂肪滴関連遺伝子研究のための遺伝モデルとしてのショウジョウバエ)
生命物質科学 専攻	VO THI THANH THE (ほー ちー たん てー)	The molecular biological studies on roles of Drosophila Mcm10, RecQ4 and heterochromatin proteins in DNA replication, genome maintenance and photoreceptor cell differentiation (DNA複製、ゲノム維持そして光受容細胞分化におけるショウジョウバエ Mcm10, RecQ4とヘテロクロマチンタンパク質の役割についての分子生物学的研究)
設計工学専攻	大森 俊博 (おおもり としひろ)	ステンレス鋼におけるフレットング疲労強度の定量評価法と表面処理による改善効果
造形科学専攻	SUEBSUK NAPHASINEE (すーぶすく なばーしー)	THE COMPARISON STUDY ON TRANSFORMATION OF HISTORICAL COMMUNITY; THE CASE OF AMPHAWA, SAMUTHSONGKRAM, THAILAND AND NINEIZAKA SANNEIZAKA, KYOTO, JAPAN (歴史的町並み保存地区の変容に関するタイと日本の比較研究)
造形科学専攻	上田 香 (うえだ かおり)	有松絞りに見る伝統工芸の歴史的変遷
建築学専攻	KITIKA CHIRANTHANIN (きていか ちらんたにん)	INTEGRATED NEIGHBORHOOD NETWORK BETWEEN URBAN COMMUNITY AND CONDOMINIUMS IN NIMMANHAEMIN-SANTITHAM AREA, CHIANG MAI THAILAND (タイ・チェンマイ、ニマンヘミン—サンティタム地区の都市とコンドミニウムの間の近隣ネットワークの戦略と基本理念)
先端ファイブロ 科学専攻	播摩 一成 (はりま いっせい)	自動車構造体に適用可能な生産性の高い射出成型用複合樹脂材料の機械的特性向上の研究
先端ファイブロ 科学専攻	岡 泰央 (おか やすひろ)	装演修理技術における打刷毛叩打の工学的研究
先端ファイブロ 科学専攻	北村 貴則 (きたむら たかのり)	The Research of Paperboards Materials on High Utilization (板紙の高度利用に関する研究)
先端ファイブロ 科学専攻	根来 孝式 (ねごろ たかのり)	Design and Applications of Recycled poly (ethylene terephthalate) (リサイクルポリエチレンテレフタレートの改質と応用利用)
先端ファイブロ 科学専攻	北條 俊彦 (ほうじょう としひこ)	A Study on the Mechanical Properties of Kenaf Mat Reinforced Composites (ケナフマット複合材の機械的な特性に関する研究)
先端ファイブロ 科学専攻	廖 夢圓 (りやお めんえん)	Researches on Tacit Knowledge of High-graded Long-term Care Technique (高品位介護における技の暗黙知解明に関する研究)

### ○論文提出によるもの（論文博士）

（平成28年9月26日授与）

専攻	申請者	論文題目（ ）は和訳
	BHAJANJIT SINGH BAL (ぼじゃんじ しんぐ ぼる)	Advancing Bioceramic Science in Orthopaedic Surgery—The Case for Silicon Nitride (整形外科におけるバイオセラミック科学の進歩—窒化ケイ素の場合)
	湯浅 健次郎 (ゆあさ けんじろう)	會津八一研究 学芸における表現と演出

## ○課程修了によるもの（課程博士）

（平成29年3月24日授与）

専攻	申請者	論文題目（ ）は和訳
生命物質科学専攻	有吉 純平 (ありよし じゅんぺい)	Development of the novel oligonucleotides for the functional regulation of RISC by promotional release of microRNA from RISC (RISC の microRNA の保持機構に着目した遺伝子制御分子の開発)
生命物質科学専攻	梅河内 隆成 (うめがわち たかなり)	Functional analysis of subcellular localization of oncogene products in Drosophila (ショウジョウバエにおけるがん遺伝子産物の細胞内局在の機能解析)
生命物質科学専攻	嶋路 耕平 (しまじ こうへい)	Studies on the biological roles of histone methyltransferase G9a in Drosophila melanogaster (キョロショウジョウバエにおけるヒストンメチル基転移酵素 G9a の生物学的役割についての研究)
生命物質科学専攻	杉田 一樹 (すぎた かずき)	Studies on Dynamics of Microsphere Suspensions Probed by Dynamic Ultrasound Scattering Techniques (動的超音波散乱法によるマイクロ微粒子懸濁液のダイナミクスに関する研究)
生命物質科学専攻	杉原 悠太 (すぎはら ゆうた)	Photo-cross-linking oligonucleotides for bioorthogonal regulation of gene expression (光架橋性核酸を利用した遺伝子発現制御)
生命物質科学専攻	TRAN THAO NGUYEN (とらん たお うえん)	Studies on Structures and Elastic Properties of Microparticles Probed by Ultrasound Scattering Techniques (超音波散乱法によるマイクロ粒子の構造と弾性に関する研究)
生命物質科学専攻	萬成 哲也 (まんなり てつや)	Brain control for sensing of peripheral blood information and maintenance of body homeostasis (脳による末梢血液情報感知とホメオスタシス維持機構)
生命物質科学専攻	PHAKKEEREE TREETHIP (ぱっくきーリー トゥーリーていっぷ)	Study on High Performance Lignin/Natural Rubber Bionanocomposites (高性能リグニン/天然ゴムバイオナノコンポジットに関する研究)
生命物質科学専攻	森下 善広 (もりした よしひろ)	Dynamics of Crack-Growth in Filled Elastomers (フィラー充填エラストマーのき裂進展挙動)
設計工学専攻	立川 友和 (たちかわ ともかず)	Analytical Models on Optimization of Internal Gear Skiving Conditions in Automobile Production (自動車用内歯歯車のスカイピング加工における加工条件を最適化するための幾何学モデル)
設計工学専攻	石橋 由子 (いしばし よしこ)	耐障害性の高い非常時一斉メール送信と冗長化した蓄積型配送を実現するメッセージングシステムに関する研究
造形科学専攻	柳橋 達郎 (やなぎばし たつろう)	日本の地方公共団体を主体とするシンボルマークによる地域性の表出とその造形—市町村の自治体紋章を中心として
造形科学専攻	原 愛 (はら あい)	不整合性と寸法に見るセナンク修道院の中世における建設
建築学専攻	畑中 久美子 (はたなか くみこ)	土壁構法の研究 「版築」「団子積み」「練り土積み」の検証実験をとおして
先端ファイブロ科学専攻	住田 嘉久 (すみた よしひさ)	押出機を用いた高機能コンパウンド材料創成に関する研究
先端ファイブロ科学専攻	土井 輝子 (どい てるこ)	認知症介護におけるレクリエーションデザイン方法論の研究
先端ファイブロ科学専攻	須田 充訓 (すだ みつのり)	Study of Paper-tube Properties (紙管の特性に関する研究)
先端ファイブロ科学専攻	伊藤 美加子 (いとう みかこ)	高齢者介助における介助技術に関する研究
先端ファイブロ科学専攻	河合 幸子 (かわい さちこ)	ヒトの透明視清澄感に関する心理学的研究
バイオベースマテリアル学専攻	富田 翔伍 (とみた しょうご)	Studies on Structural Responses in Sphere-Forming Triblock Copolymers Subjected to Stress Fields (球状マイクロ相分離構造を形成するトリブロック共重合体に応力場を印加した時の構造応答に関する研究)
生命物質科学専攻	Ryan Matthew Bock (らいあん ましゅー ぼっく)	Manipulation of Silicon Nitride Biomaterial Surfaces for Enhanced Osteoconductivity and Bacteriostasis (骨伝導性および抗菌性を高めるための窒化ケイ素生体における表面処理)

# 卒業生・修了生の就職先・進学先 (平成28年度 進路先内定状況一覧)

## 工芸科学部

(☆印は進学先を示す)

学生サービス課就職支援室

(H29. 2.28現在)

応用生物学課程		企業名等		企業名等		企業名等	
企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
住江織物	1	千趣会	1	東洋紡	1	ピアスグループ	1
藤本製薬	1	リラク	1	ロゼット	1	(既職) 東レ	1
☆京都工芸繊維大学	33	☆京都大学	3	☆神戸大学	1	☆東京大学	1
☆東京農工大学	1						
生体分子工学課程							
帝人フロンティア	1	日精	1	日本ハム	1	ユニチカ	1
ローム	1	(既職) 東レ	1	☆京都工芸繊維大学	35	☆大阪大学	2
☆京都大学	2						
高分子機能工学課程							
京都府警察	1	新学社	1	富士ゼロックス	1	リンテック	1
☆京都工芸繊維大学	45	☆京都大学	3	☆奈良先端科学技術大学院大学	1		
物質工学課程							
ネスレ日本	1	日立マクセル	1	ファイブスター	1	POLYPLASTICS ASIA PACIFIC Sdn.Bhd.	1
ローム	1	ワークスアプリケーションズ	1	☆京都工芸繊維大学	56	☆京都大学	6
☆東京工業大学	1	☆奈良先端科学技術大学院大学	1				
電子システム工学課程							
イリソ電子工業	1	西日本旅客鉄道	1	任天堂	1	兵庫県警察	1
堀場エステック	1	三菱重工工作機械	1	三菱電機プラントエンジニアリング	1	村田機械	2
☆京都工芸繊維大学	52	☆東京大学	1				
情報工学課程							
Cygames	1	島津エス・ディー	1	日研トータルソーシング	1	日本放送協会	1
ビズリーチ	1	三井住友カード	1	☆京都工芸繊維大学	47	☆京都大学	1
☆筑波大学	1	☆東京工業大学	1				
機械システム工学課程							
インダ	1	近畿運輸局	1	SHIMADA	1	JR 西日本テクシア	1
常石造船	1	鉄道建設・運輸施設整備支援機構	1	東拓工業	1	西宮市	1
ニチユ三菱フォークリフト	1	パナソニックアプライアンス	1	本田技研工業	1	三菱電機	1
ヤマハ発動機	1	ローム	1	☆京都工芸繊維大学	68	☆京都大学	1
デザイン経営工学課程							
オムロンソーシャルソリューションズ	1	京進	1	近畿車輛	1	呉羽テック	1
ジーエス・ユアサコーポレーション	1	千趣会	1	大黒天物産	1	日立アプライアンス	1
ホームライフ	1	堀場製作所	1	吉田	1	ラックランド	1
☆京都工芸繊維大学	23	☆東京大学	1	☆九州大学	1		
造形工学課程							
A.C.E 波多野一級建築士事務所	1	大林組	2	京都大学	1	国土交通省航空保安大学校	1
国土交通省国土地理院	1	島根県	1	ジャパンインターナショナル総合研究所	1	スペース	1
積水化学工業	1	竹中工務店	1	大幸住宅	1	大鎮キムラ建設	1
大東建設	1	大和ハウス工業	1	長太	1	東建コーポレーション	1
HARIO	1	バイオニア	1	バナホーム	1	防衛省陸上自衛隊	1
前田建設工業	1	三井ホーム	1	モリサワ文研	1	ヤマハ発動機	1
☆京都工芸繊維大学	70	☆京都大学	1	☆首都大学東京	1		
先端科学技術課程							
エンベリューション	1	オムロン	1	キャノンマーケティングジャパン	1	工進	1
ツバキ E&M	1	寺内製作所	1	南都銀行	1	日本医学臨床検査研究所	1
日本テクシード	1	三星ダイヤモンド工業	1	ワークスアプリケーションズ	1	☆京都工芸繊維大学	10
☆京都大学	1						

## 大学院工芸科学研究科博士前期課程

(☆印は進学先を示す)

応用生物学専攻		企業名等		企業名等		企業名等	
企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
アサヒ飲料	1	伊丹市	1	花王	1	京都市立学校教員 (中学校)	1
クオルテック	1	グリコ栄養食品	1	国際協力機構	1	ユニシ	1
シミック	1	スタップサービス・エンジニアリング	1	住友ゴム工業	2	タカラバイオ	1
天下一品	1	TS 工建	1	DG TAKANO	1	Department of Agricultural and Rural Development	1
東レ	1	鳥居食品	1	ナガセコムテックス	1	西日本旅客鉄道	1
日研トータルソーシング	1	日新薬品工業	1	日東薬品工業	1	日ポリ化工	1
日本毛織	1	日本新薬	2	日本製粉	1	パウレック	1
パナソニックイノベーションシステムズ	1	パレクセル・インターナショナル	1	ファイブ	1	ベルグアース	1
丸大食品	2	雪印メグミルク	1	YODOQ	1	LIXIL	1
生体分子工学専攻							
☆京都工芸繊維大学	1						
高分子機能工学専攻							
テクノプロ・R&D 社	1						
物質工学専攻							
互応化学工業	1	長瀬産業	1				
材料創製化学専攻							
因幡電機産業	1	大阪製織	1	京セラドキュメントソリューションズ	2	堺化学工業	1
サンディスク	1	シーシーアイ	1	品川リフラクトリーズ	1	ジーエス・ユアサコーポレーション	1
住友大阪セメント	1	住友ゴム工業	1	住友電装	1	タカラスタンダード	1
第一工業製薬	1	タイキン工業	1	デンカ	1	凸版印刷	1
ナガセコムテックス	1	日亜化学工業	1	日産化学工業	1	日星電気	1
ニッタ	1	日本山村硝子	1	日本電気硝子	1	日本特殊陶業	2
パナソニック	2	フジインコーポレーテッド	1	マツダ	1	ローム	1
材料制御化学専攻							
アルプス技研	1	サカタインクス	1	サンコール	1	ジーエス・ユアサコーポレーション	1
住友ゴム工業	2	住友電装	1	タイキンアプライドシステムズ	1	ダイハツ工業	1
WDB エウレカ	1	帝人フロンティア	1	TMT マシナリー	1	東洋ゴム工業	1
ニチコン	2	日本精工	1	日本電気硝子	2	日本エアロスペース	1
日本電産	1	フリタケカンパニーリミテド	1	パナソニック	1	バンドー化学	1
北陽電機	1	MARUWA	1	三井化学	2	☆京都工芸繊維大学	2
物質合成化学専攻							
エア・ウォーター	2	片山製薬所	1	京セラ	1	共和	1
牛乳石鹸共進社	1	ユニシ	1	JSR	1	住江織物	1
積水フーラー	1	立山化成	1	第一工業製薬	1	ダイセル	1
東洋インキ SC ホールディングス	1	ナカライテック	1	日本エイアンドエル	1	日本合成化学工業	1
パナソニック	2	日立化成	1	藤本化学製品	1	ベルグシーラス	1
マツイカガク	1	三木理研工業	1	三菱電線工業	1	村田製作所	1
明成化学工業	1	ローム	1	☆京都工芸繊維大学	1		
機能物質化学専攻							
IHI 検査計測	1	アサヒ飲料	1	加地テック	1	クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン	1
小林製薬	1	三洋化成工業	2	島津ビジネスシステムズ	1	シミック	1
住化分析センター	1	住友ゴム工業	1	住友重機械工業	1	積水化学工業	1
大成建設	1	大王製紙	1	東洋紡	1	豊田合成	1
日揮	1	日伸工業	1	日清食品	1	日立製作所	1
日吉	1	HILLTOP	1	フジクリーン工業	1	富士紡ホールディングス	2
堀場アドバンスドテクノ	2	三菱マテリアル	1	三ツ星ベルト	1	村田製作所	1
LIXIL	1	☆京都工芸繊維大学	1				

電子システム工学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
オムロン	1	関西電力	1	ざんてん	1	京都市	1
ケイ・オブティコム	1	コニカミノルタ	1	松風	1	信越化学工業	1
ソフトバンク	1	ダイハツ工業	1	デンソーウェーブ	1	トヨタ自動車	2
日本電産	1	パナソニック	1	パナソニックデバイスシステムテクノ	2	日立オムロンターミナルソリューションズ	1
日立造船	1	古河電気工業	2	富士通テクノロジ	1	マツダ	1
三菱電機	3	村田機械	1	村田製作所	1	ヤマハ発動機	1
ルネサスシステムデザイン	1	ローム	1	☆京都工芸繊維大学	2		
<b>情報工学専攻</b>							
イシタ	1	インテリジェンスビジネスソリューションズ	1	SGシステム	1	エネゲート	1
AVCマルチメディアソフト	1	オムロンソフトウェア	3	カシオ計算機	1	関電システムソリューションズ	4
キーエンス	1	京都電子計算	1	クローリー	1	ケイ・オブティコム	3
サイバーエージェント	1	島津製作所	1	島津ビジネスシステムズ	1	信越化学工業	1
ジーニー	1	Sky	1	SCREENグラフィックアンドソリューションズ	1	ダイキン工業	1
大日本印刷	1	東京計装	1	都市再生機構	1	トヨタ自動車	1
西日本電信電話	1	日工	1	ニテック	1	日本電気	2
パナソニック	1	パナソニックインフォメーションシステムズ	1	パナソニックファクトリーソリューションズ	1	古野電気	1
堀場エステック	1	堀場製作所	2	マツダ	1	三菱電機	2
三菱電機マイコン機器ソフトウェア	2						
<b>機械物理学専攻</b>							
川崎重工業	1	クボタ	1	小松製作所	2	神鋼環境ソリューション	1
ジーエス・ユアサコーポレーション	1	ジェイテクト	3	SCREENホールディングス	1	スカツネ工業	1
住友電気工業	1	積水化学工業	1	大幸薬品	1	ダイキン工業	1
デンソーテクノ	1	東レ	1	日本海事協会	1	日本ガイシ	1
パナソニック	1	パナソニックサイクルテック	1	パナソニックデバイスシステムテクノ	1	Hitz日立造船	1
富士ゼロックス	1	富士通ゼネラル	1	富士電機	1	三菱電機	1
三菱日立パワーシステムズ	1	村田機械	1	山本光学	1	ヤンマー	1
YKK	1	☆京都工芸繊維大学	3				
<b>機械設計学専攻</b>							
アイン AW	1	朝日エテック	1	NTT データ先端技術	1	沖電気工業	1
神戸製鋼所	1	住友精密	1	積水化学工業	2	ダイハツ工業	1
寺崎電気産業	1	テロココーポレーション	1	東海旅客鉄道	1	トプコン	1
長浜製作所	1	ニチユ三菱フォークリフト	3	日立製作所	1	堀場製作所	1
村田機械	1	村田製作所	1	三菱電機	2	☆京都工芸繊維大学	1
☆名古屋大学	1						
<b>デザイン経営工学専攻</b>							
アサツーティ・ケイ	1	伊藤軒	1	イトーキ	2	ジョーンズラングラサル	1
チトセロボティクス	1	テサント	1	TOTO	1	凸版印刷	1
日建設計	1	日本アイ・ピー・エム	1	ハブテック	1	パナソニック	1
プラス	1	三井デザインテック	1	ヤマハ発動機	1	リスパック	1
☆京都工芸繊維大学	1						
<b>造形工学専攻</b>							
後宮建設	1						
<b>建築学専攻</b>							
伊藤立平建築設計事務所	1	ウッドフレンズ	1	NTT ファシリティー関西	1	大阪市	2
大阪府	1	鹿島建設	1	近鉄不動産	1	隈研吾建築都市設計事務所	1
久米設計	1	さくら構造	1	清水建設	1	ジェイアール西日本ビルト	1
積水ハウス	2	銭高組	1	高島屋スペースクリエイツ	1	竹中工務店	1
立石構造設計	1	谷口工務店	1	大京	1	大和ハウス工業	1
ティールハウス建築設計事務所	1	東京都	1	東京電力ホールディングス	1	都市再生機構	1
戸田建設	1	奈良市	1	日建設計	1	日建設計コンストラクション・マネジメント	1
長谷工コーポレーション	1	阪急電鉄	1	阪神高速技術	1	広島県	1
フジタ	1	フジテック総合計画事務所	1	北栄工務店	2	前田建設工業	2
松田平田設計	1	三井デザインテック	1	☆京都工芸繊維大学	2		
<b>デザイン学専攻</b>							
イトーキ	1	インタラクションイニシアティブ	1	ウィル	1	岡村製作所	1
カリモク家具	1	キョーテック	1	シャープ	1	ソーニー	1
ダイハツ工業	1	日本電機	1	藤田建築	1	丸真	1
山本紙業	1	ランパス	1	(既職) 田辺市	1	☆京都工芸繊維大学	1
<b>先端ファイブ科学専攻</b>							
アルテクナ	1	ウシオ電機	1	エヌアイディ	1	カネカ	1
川崎重工業	1	栗本鐵工所	1	KYB	1	コニカミノルタ	1
シマノ	1	スターライト工業	1	タカラベルモント	1	大八化学工業	1
東京エレクトロン	1	東雄技研	1	東レ	1	トヨタ自動車	1
トヨタ車体	1	ニトリ	1	日本ガイシ	1	ノバシステム	1
パナソニック	1	富士通	1	VSN	1	マツダ	1
三菱化学エンジニアリング	1	三菱電機	2	村田機械	1	村田製作所	1
矢崎総業	1	ユニ・チャーム	1	LIXIL	1	ローム	1
(既職) 喫茶フィカロ	1	☆京都工芸繊維大学	5				
<b>バイオベースマテリアル学専攻</b>							
愛三工業	1	オーケー器材	1	大阪ガス	1	京セラドキュメントソリューションズ	1
クラシエフーズ	1	島津製作所	1	積水化成工業	1	タルトン	1
東リ	1	中西金属工業	1	ニチバン	1	日本農産工業	1
日本ペイントホールディングス	1	パナソニック	1	パナソニックデバイスエンジニアリング	1	ミスノ	1
☆京都工芸繊維大学	1						

大学院工芸科学研究科博士後期課程

生命物質科学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
カラーリンクジャパン	1	カリフォルニア大学アーバイン校(ボストク)	1	京都工芸繊維大学(ボストク)	1	サイゴンハイテクパーク	1
堺市	1	仙台大学	1	ハーバード大学医学部(ボストク)	1	伏見岡本病院	1
ブリヂストン中央研究所	1	ホーチミン理科大学	1	MORESCO	1	(既職) Can Tho University	1
(既職) 京都光華女子大学	1	(既職) シャープ	1	(既職) タカラベルモント	1		
<b>バイオテクノロジー専攻</b>							
国立栄養研究所	1						
<b>設計工学専攻</b>							
アイシン精機	1	兵庫県警察	1	山本工学	1	(既職) タイヘン	1
(既職) 日産自動車	1						
<b>電子システム工学専攻</b>							
(既職) 沖電気工業	1	(既職) パナソニック	2				
<b>造形科学専攻</b>							
名古屋文理大学教員	1	(既職) 京都工芸繊維大学教員	1	(既職) 自営業	2	(既職) 東日本旅客鉄道	1
<b>建築学専攻</b>							
岐阜市立女子短大講師	1	(既職) チェンマイ大学	1				
<b>先端ファイブ科学専攻</b>							
大阪市立学校教員	1	(既職) KRI	1				
<b>バイオベースマテリアル学専攻</b>							
高エネルギー加速器研究機構(ボストク研究員)	1	(既職) 神戸製鋼所	1	(既職) 水谷ペイント	1		

## ■ 年会費等の納入について

### 1. 会費の役割等について

- (1) 「KIT 同窓会」は、会員相互の交流と親睦を図り、もって母校の発展、学術文化及び産業の振興に寄与することを目的とし、会員の皆様方からの年会費のほか、寄付金（賛助金）等により、「KIT 同窓会」の充実・発展・運営・活動を実行して参ります。このことは本会のみならず、母校への強い支援になります。今後とも会員の皆様方のご支援・ご協力をお願いします。
- (2) 平成22年度から、「年額制」（3,000円）に加え「終身会費制」（30,000円）が導入されました。
- (3) 平成25年度から前納による割引制度は廃止されました。複数年の払込は、3,000円の整数倍をお振込下さい。
- (4) 新同窓会設立（平成18年度）以後に納入された年会費を終身会費額に至る一部としてカウントしておりますので、30,000円に至る残額を納入されることにより、終身会費納入済みとなります。なお、一旦、納入された会費は返金出来ませんのでご了承下さい。
- (5) 工芸科学部を卒業された方で、入学時に賛助金と学生会費（20,000円）を納められた方は、卒業後10,000円の納入で終身会費納入となります。
- (6) 長期間にわたり会費未納の会員の方は何卒会費納入にご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 2. 会費納入を確認する方法

- (1) 終身会費制が導入されたことに伴う平成18年度以降の年会費納入済額については、直接事務局にお問い合わせください。
- (2) 平成29年度年会費及び終身会費が納入済の方には、会費納入の振込用紙は同封しておりません。

### 3. 終身会費納入済の方

終身会費が納入済みの方は、氏名に「☆」マークを付しております。また、平成29年度以降の会費納入済の再掲載は省略しております。

### 4. 旧工芸学部同窓会（京都工大会）、旧繊維学部同窓会（衣笠同窓会）との関係につきまして

京都工大会は解散し、一方、衣笠同窓会は本同窓会の部会となりました。このため、KIT 同窓会へは新たに会費を納入して頂きますようお願い申し上げます。衣笠同窓会の会費（終身会費）はKIT 同窓会の部会活動のためのものです。

### 5. KIT 同窓会年会費・前納会費納入者報告〔順不同・敬称略〕

平成29年3月8日までに、平成28年度以降の年会費を納入された方は下記のとおりです。  
なお、紙面の関係上、京都工芸繊維大学の学部卒業後大学院を修了された方の専攻名及び修了年は省略しております。  
記載漏れ等お気づきのことがございましたら事務局にご一報ください。調査のうえご連絡申し上げます。

## お知らせ

### 2015年版同窓会名簿について

KIT 同窓会事務局

平素は同窓会活動にご支援とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

2015年2月に、12年ぶりに発行いたしました同窓会名簿はおかげさまでたくさんの方々にご購入いただきました。名簿には旧制学校から平成26年12月現在までの会員の皆様を対象として収録しておりますほか、現在の大学を空から一望した航空写真やキャンパス風景、沿革、校歌、学歌も巻頭の数頁に掲載されており、会員相互の皆様の親睦・交流に役立てていただけるものと存じます。

平成27年から2か年にわたり1部5,000円（郵送料別）で販売させていただきましたが、現在、まだ若干の予備がございます。平成29年度から1部2,000円（郵送料別）として販売させていただきますので、この機会にぜひご購入いただきますようお願いいたします。

名簿の購入を希望される方は、同窓会事務局へ代金2,000円を添えてお申し込み下さい。申し込み・入金を確認後、着払い（送料は、各自ご負担ください。京都府内570円、京都府以外の近畿圏620円、他全国）にてお送りいたします。

代金振替口座（ゆうちょ銀行）

00960-3-224524

他金融機関からの振込用口座番号

〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099）

当座 0224524

#### 住所等の変更異動通知について

会員データの変更に伴う修正等がある場合は、氏名・卒業年・卒業学科等、訂正・変更がわかるように、下記何れかの方法でご連絡ください。

郵便の場合は、〒606-0956 京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1 京都工芸繊維大学同窓会事務局 宛へ

FAX の場合は、075-724-7232へ

E-mailの場合は、kit-obog@jim.kit.ac.jp又は、同窓会ホームページの「お問い合わせ」フォームからご連絡下さい。

氏名・自宅住所・電話番号・メールアドレス・勤務先名・勤務先所在地・勤務先電話番号・その他の変更がある場合、同窓会事務局までご連絡下さい。

## 表紙デザインについて

人、それぞれの人生は、それぞれが唯一無二の小説のような物語にたとえられることがあります。そしてその内容は、ある事柄の一場面や、思い出の場所からの風景や、漂う香りなどによって記憶の中に紐付けられ、格納されているとされています。

今回の表紙は、本学の3号館（旧京都高等工芸学校本館 昭和5年竣工 本野精吾設計）の現在の姿です。

さて、そのままお近くに姿見（鏡）があれば、本同窓会誌「工織」を開いた状態で、ご自身のお姿を、その鏡に映してご覧ください。

そこには、思い出の学び舎と共に、自然と微笑んだご自身がいらっしやると思います。

デザイン・建築学系准教授 西村雅信  
（意匠工芸学科 昭和59年卒）



### 編集委員

理事	森 肇	蚕糸生物学科 昭和57年卒 京都工芸繊維大学理事・副学長 KIT 同窓会副会長（広報担当）
理事	森本 一成	電子工学科 昭和51年卒 京都工芸繊維大学副学長 KIT 同窓会総務委員長
事務局	志賀 均	専務理事
事務局	荒木 克己	KITビューロー
事務局	藤井ひろみ	事務局員

京都工芸繊維大学同窓会 KIT同窓会誌 No.11

平成29年4月発行

発行所: 京都工芸繊維大学同窓会  
(略称「KIT同窓会」)

〒606-0956 京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1

Tel/Fax: (075)724-7232

e-mail: [kit-obog@jim.kit.ac.jp](mailto:kit-obog@jim.kit.ac.jp)

URL: <http://www.kit-obog.com>

振替口座: 00960-3-224524

印刷所: (株)北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

Tel: (075)791-6125

Fax: (075)791-7290



2017